

3. 男女の地位に関する意識について

問 26 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

■男女で「平等である」の割合が5割以上なのは『学校教育の場』となっている。

〔男性が優遇〕が最も高いのは『職場（賃金や待遇など）では』となっている。

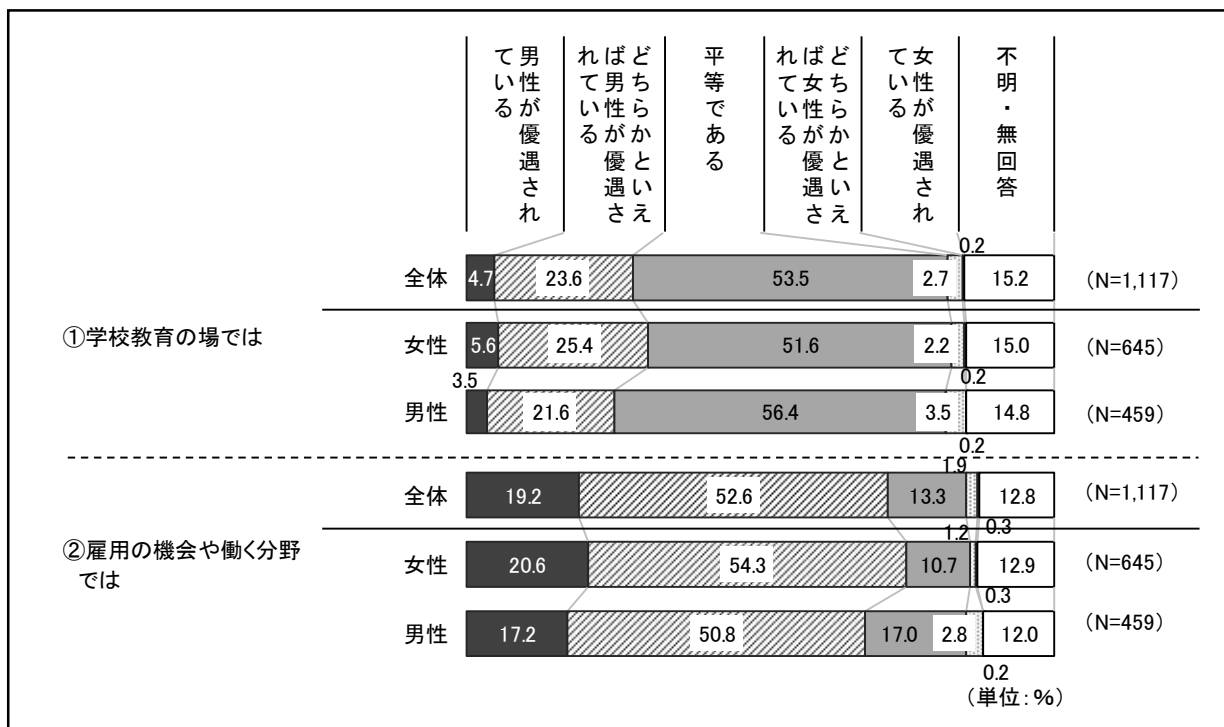
全国と比較して市では『家庭生活の場では』の「平等である」割合が特に下回っている。

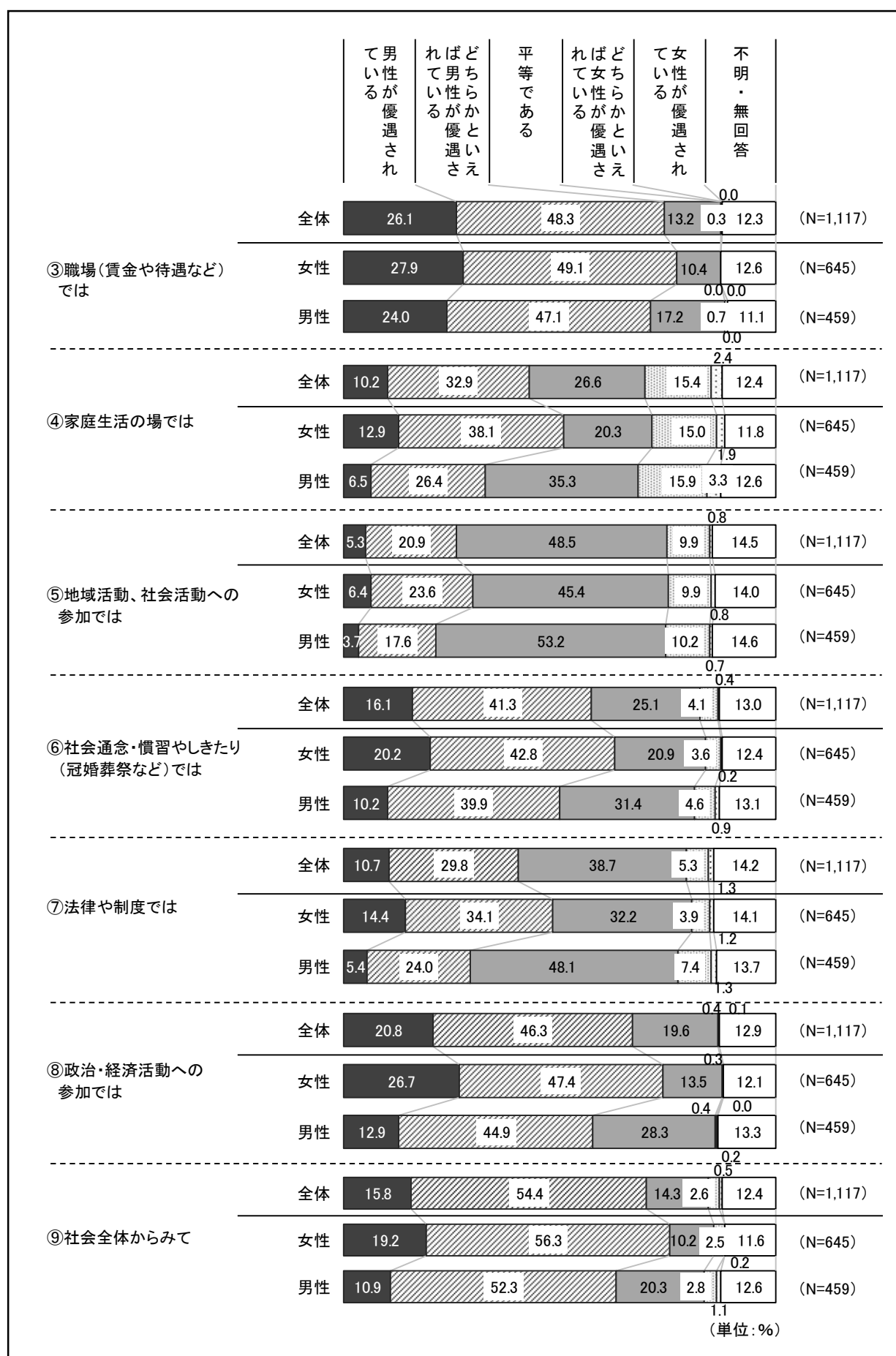
全体、男女ともに「平等である」が最も高い項目は『①学校教育の場では』となっており、次いで『⑤地域活動、社会活動への参加では』『⑦法律や制度では』となっています。また、〔女性が優遇〕（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）より〔男性が優遇〕（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合がすべての項目で高くなっています。特に〔男性が優遇〕は『②雇用の機会や働く分野では』（女性 74.9%、男性 68.0%）、『③職場（賃金や待遇など）では』（女性 77.0%、男性 71.1%）、『⑨社会全体からみて』（女性 75.5%、男性 63.2%）で高くなっています。

前回調査と比べると、おおむね同様の傾向ですが、男性の『⑧政治・経済活動への参加では』では〔男性が優遇〕が増加し、「平等である」が減少しています。

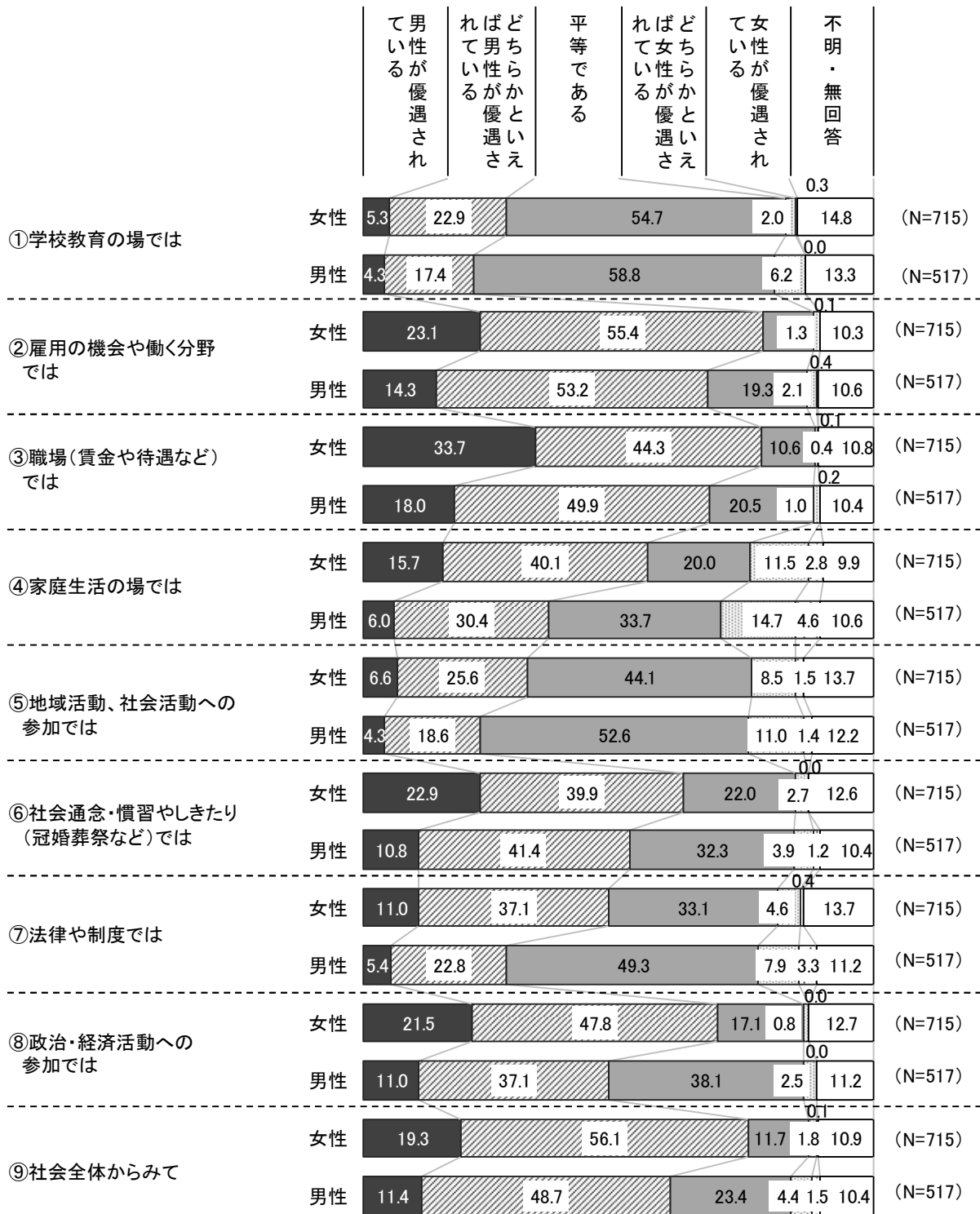
国の調査と比べると、『⑥社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では』『⑧政治・経済活動への参加では』以外のすべての項目で、「平等である」の割合は東大阪市の方が低く、『④家庭生活の場では』の差が大きくなっています。

性別・年齢別に〔男性が優遇〕の状況をみると、30 歳以上では、すべての項目で女性の方が男性より割合が高くなっています。



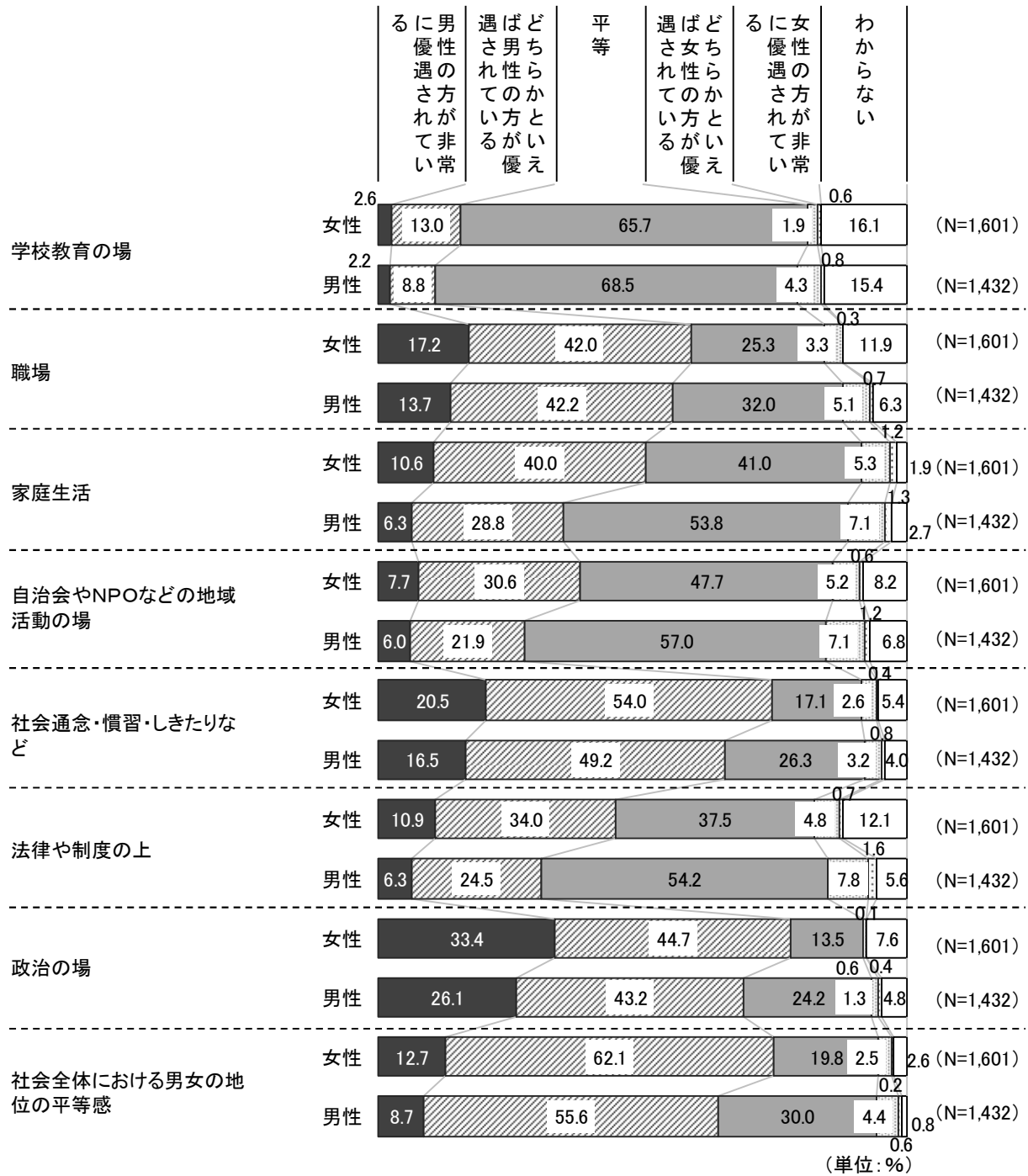


前回調査(平成 21 年度)



(単位: %)

参考 国の調査(平成 24 年)



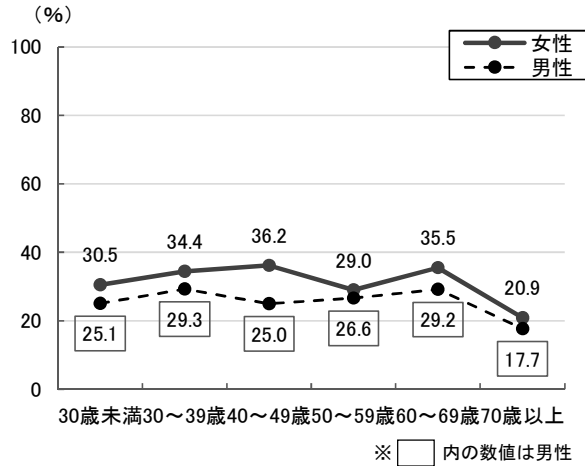
資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 24 年

性別・年齢別

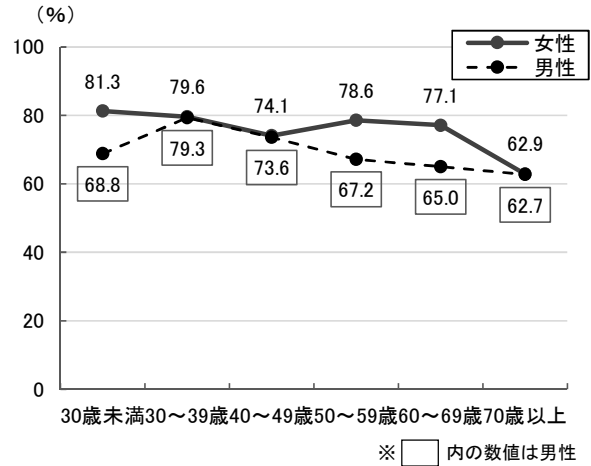
◆ [男性優遇]

(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)

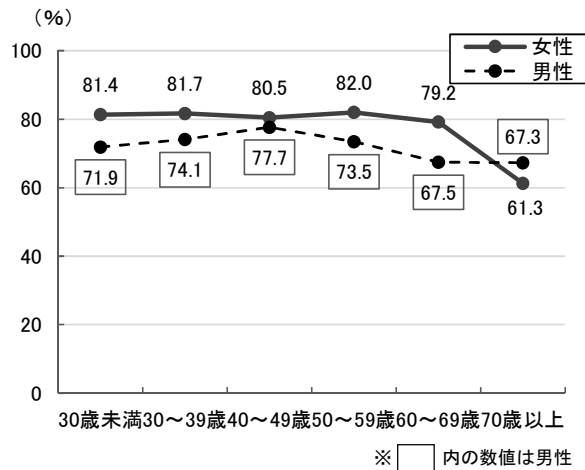
①学校教育の場では



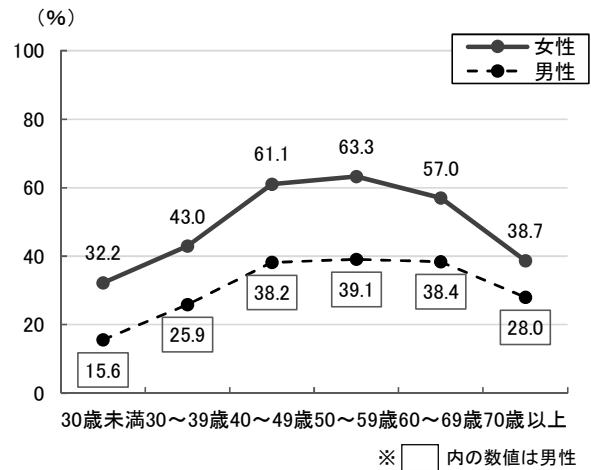
②雇用の機会や働く分野では



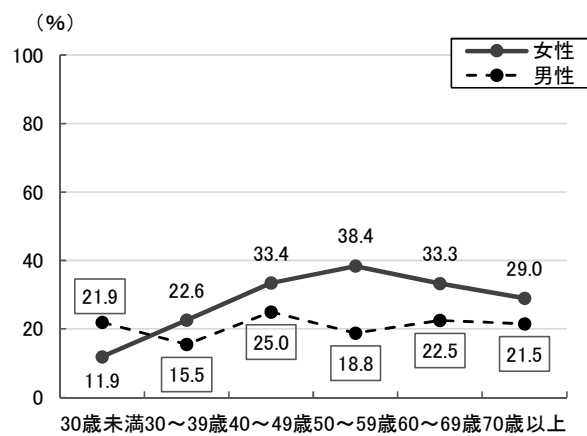
③職場(賃金や待遇など)では



④家庭生活の場では

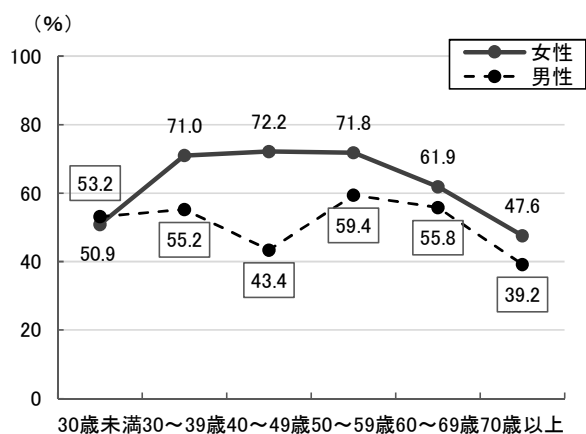


⑤地域活動、社会活動への参加では



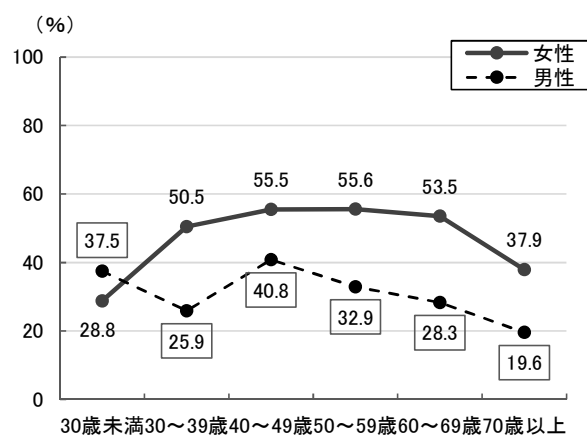
※ □ 内の数値は男性

⑥社会通念・慣習やしきたり(冠婚葬祭など)では



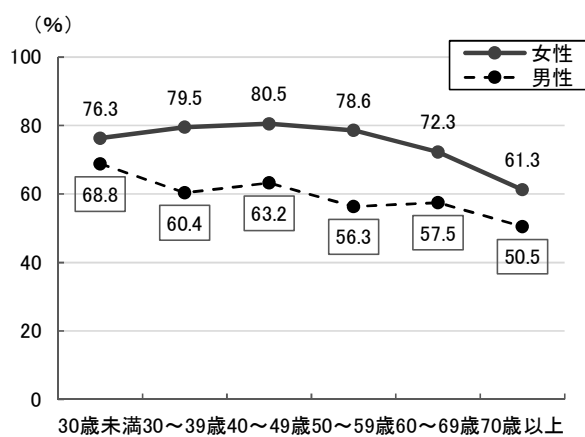
※ □ 内の数値は男性

⑦法律や制度では



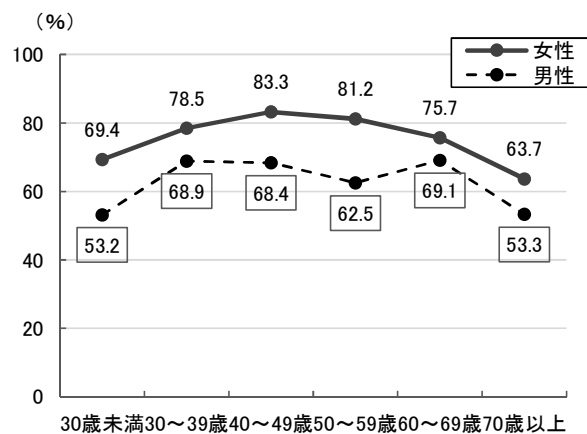
※ □ 内の数値は男性

⑧政治・経済活動への参加では



※ □ 内の数値は男性

⑨社会全体からみて



※ □ 内の数値は男性

問 27 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

■固定的な性別役割分担意識について、[同感する] より [同感しない] ほうが高い。

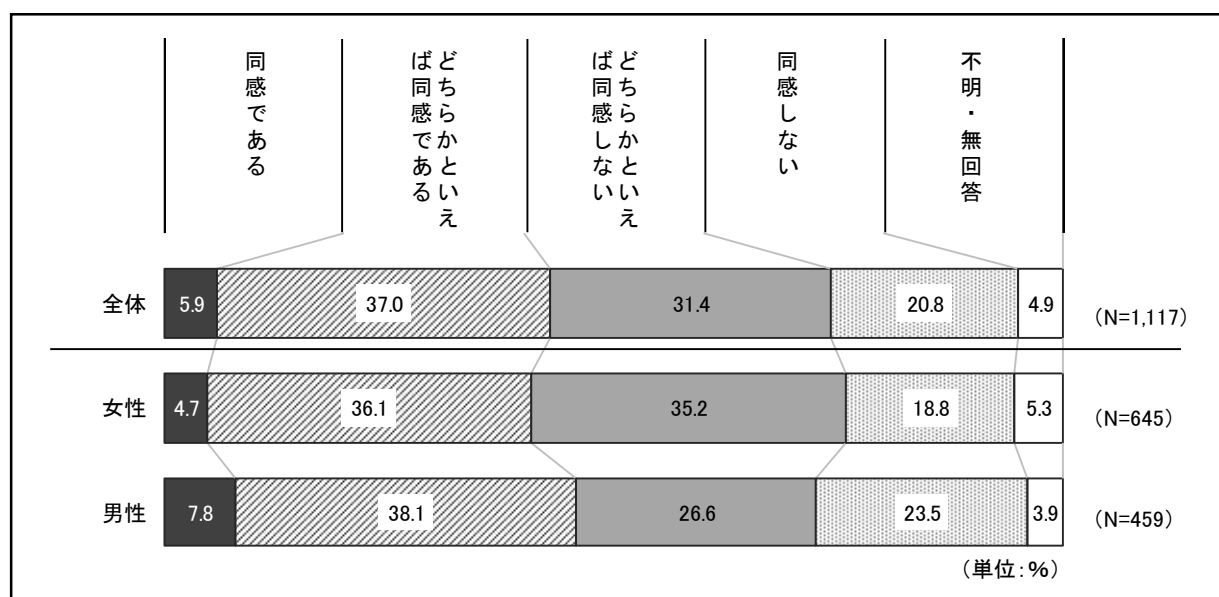
[同感する] 割合は前々回調査以降、減少している。

70 歳以上では [同感しない] より [同感する] ほうが高い。

全体、男女ともに [同感する]（「同感である」と「どちらかといえば同感である」の合計）（全体 42.9%、女性 40.8%、男性 45.9%）より [同感しない]（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計）（全体 52.2%、女性 54.0%、男性 50.1%）の方が高くなっており、その差は女性で 13.2 ポイント、男性で 4.2 ポイントとなっています。

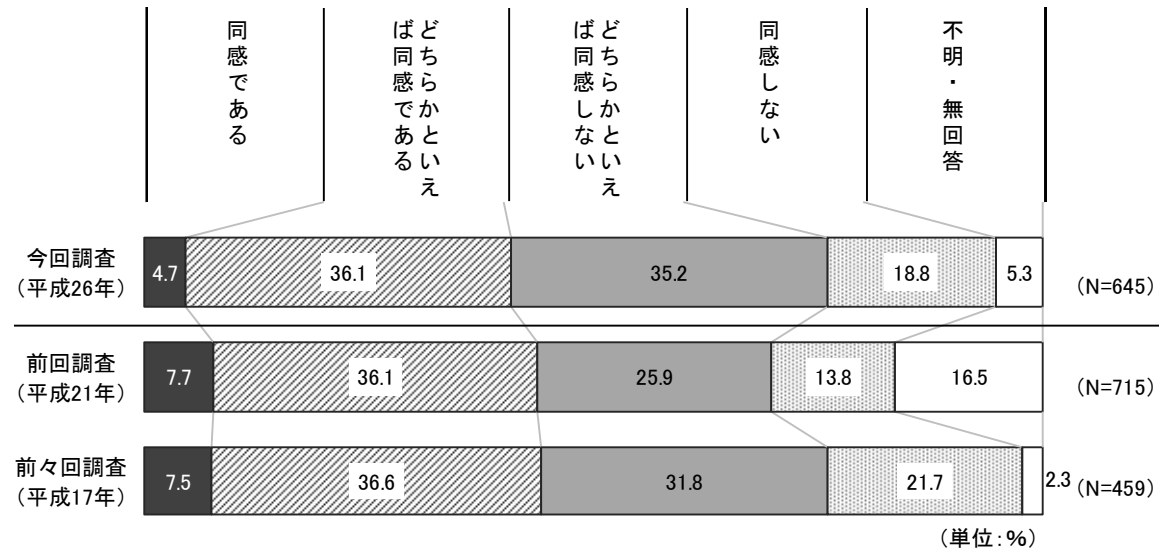
前回調査、前々回調査をみると、[同感する] 割合は男女ともに減少傾向にあります。

性別・年齢別にみると、男女ともにほとんどの年代で [同感しない] ほうが高くなっていますが、女性の 70 歳以上、男性の 50～59 歳、70 歳以上の高齢世代で [同感する] ほうが高くなっていきます。

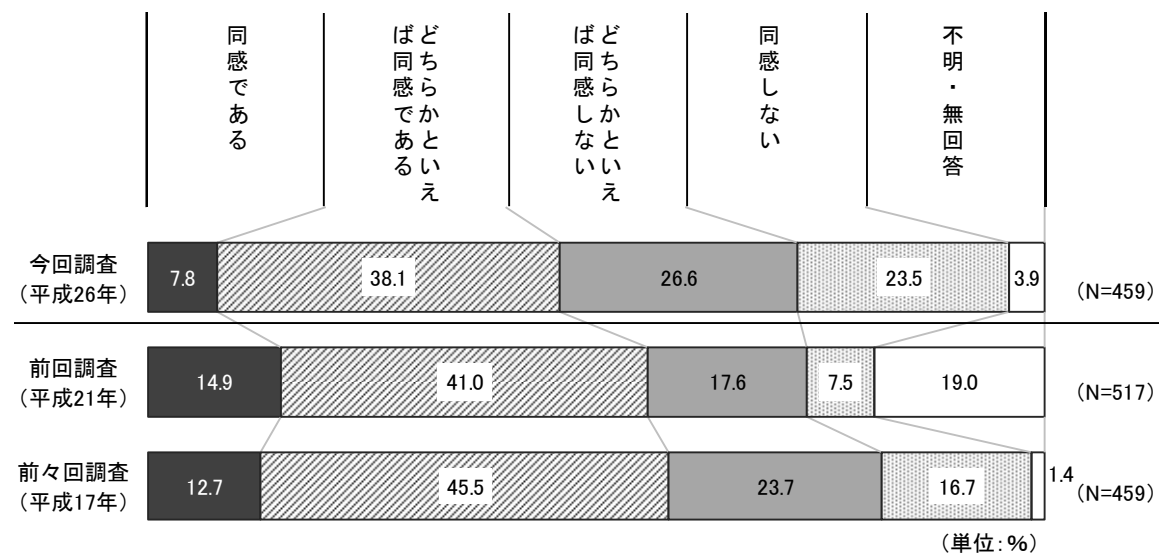


前回調査(平成21年度)、前々回調査(平成17年度)

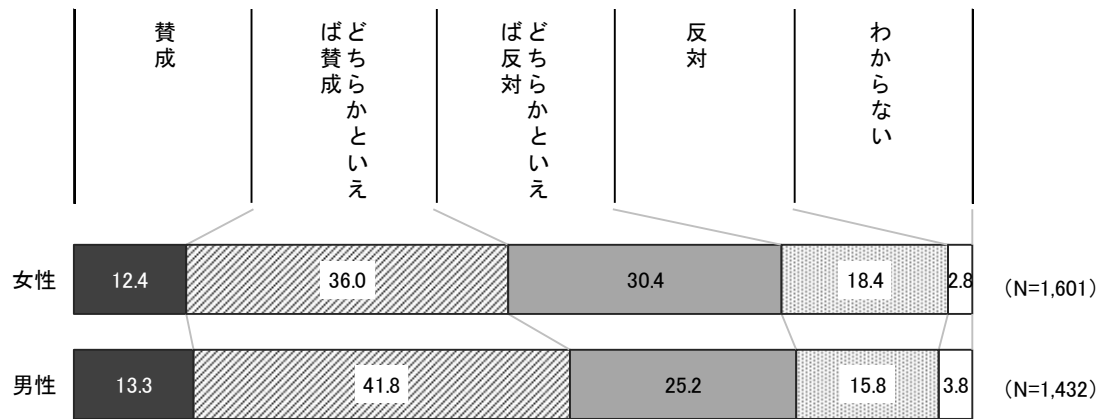
【女 性】



【男 性】



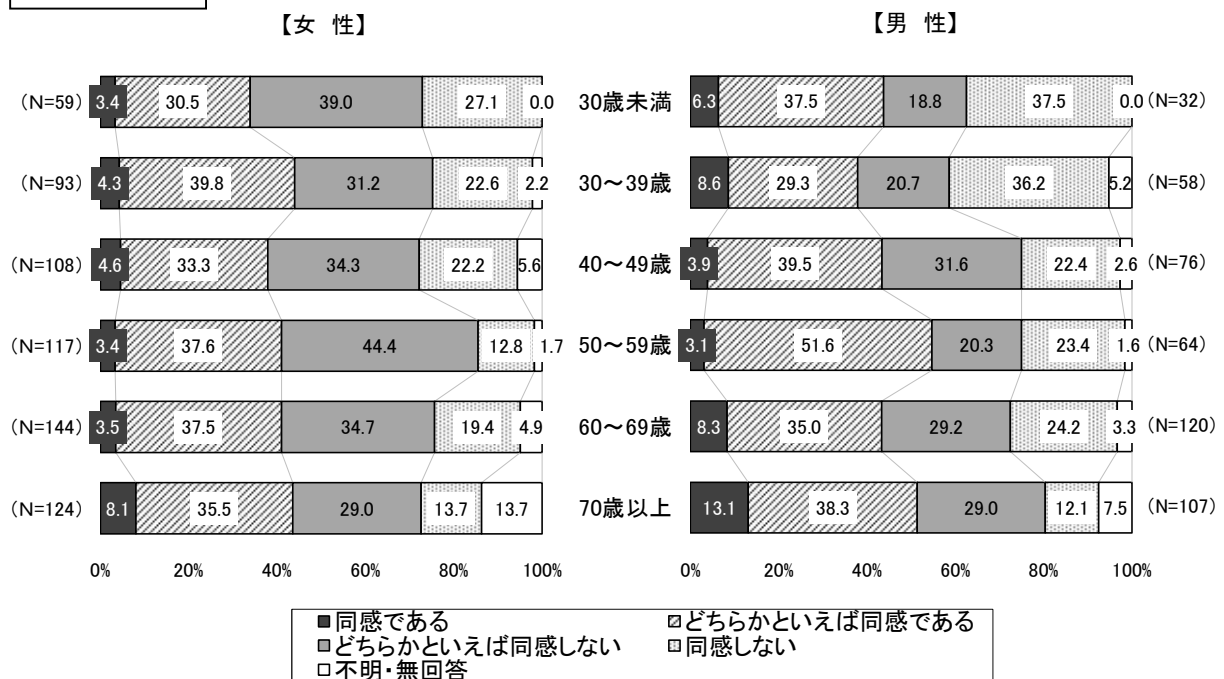
参考 国の調査(平成 24 年)



(単位: %)

資料: 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 24 年

性別・年齢別

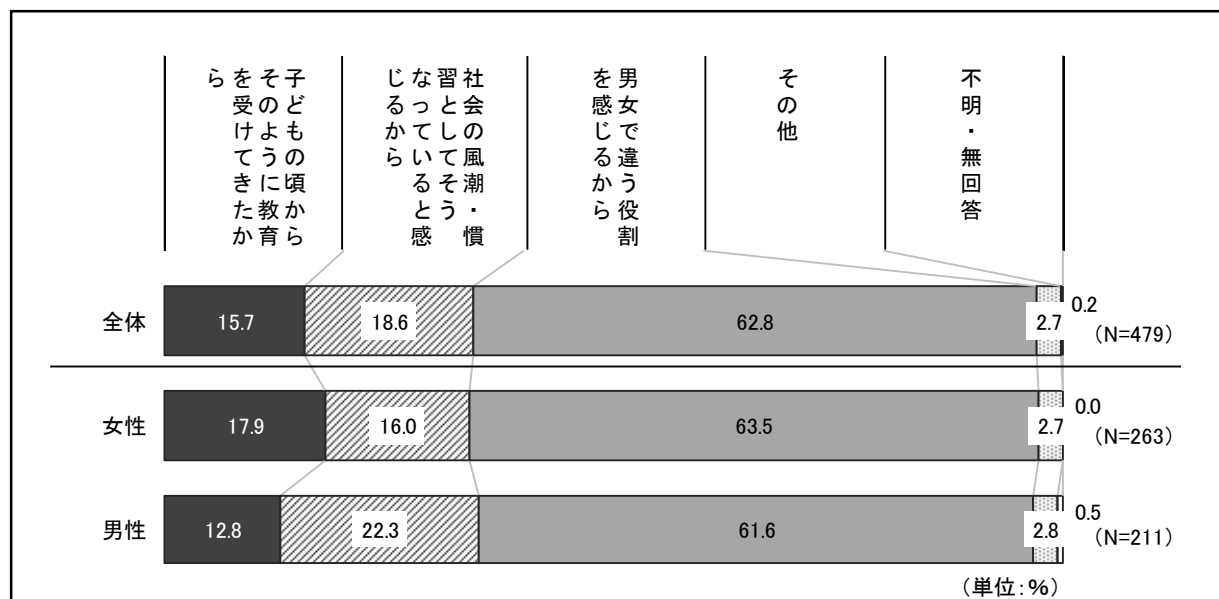


問 27 で「同感である」もしくは「どちらかといえば同感である」と回答された方
問 27-1 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

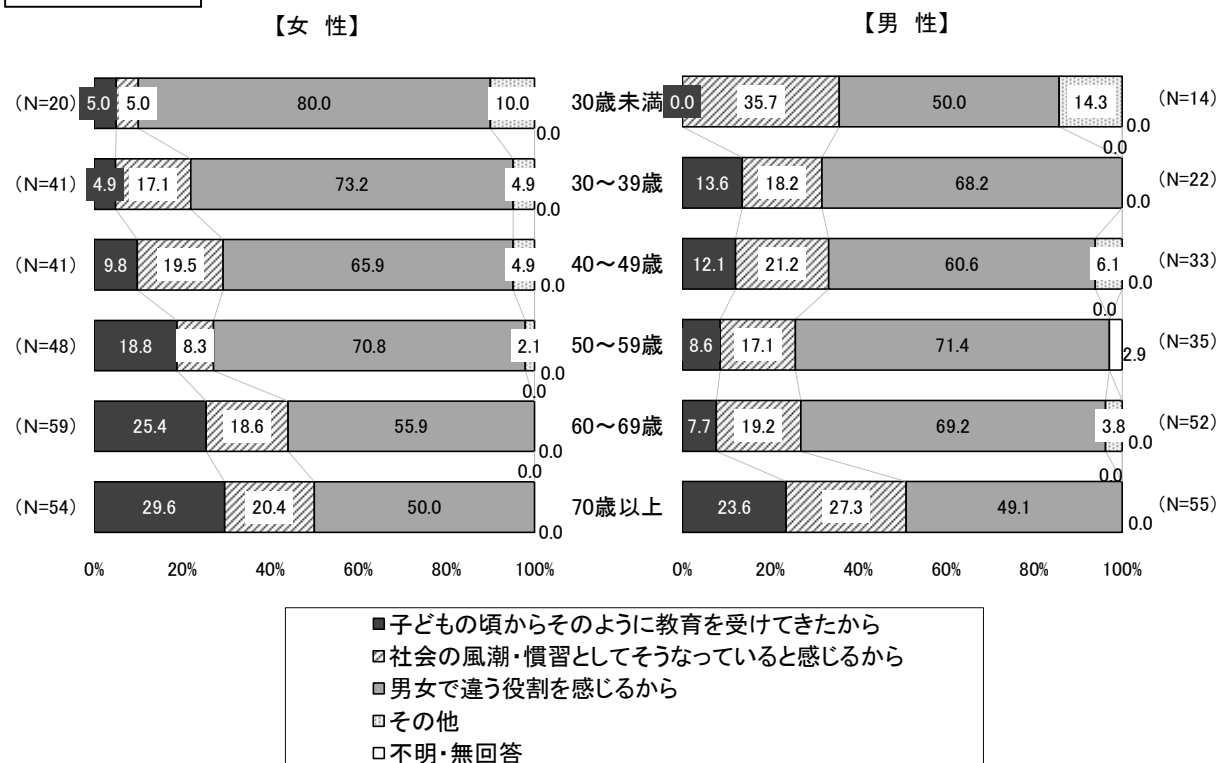
■ 「同感である」と思う理由は「男女で違う役割を感じるから」が最も高い。

「同感である」と思う理由は、全体、男女ともに「男女で違う役割を感じるから」が最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「男女で違う役割を感じるから」が最も高くなっていますが、「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」では女性の年代が上がるほど高くなっています。



性別・年齢別

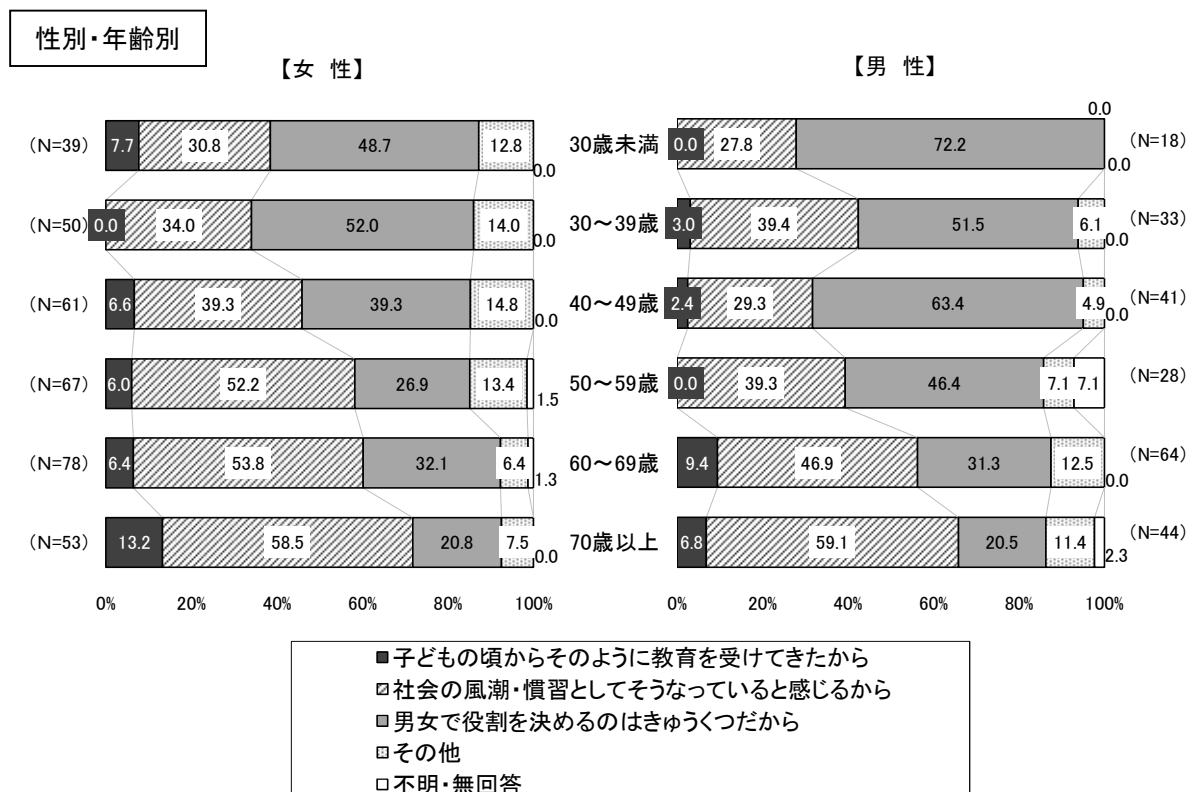
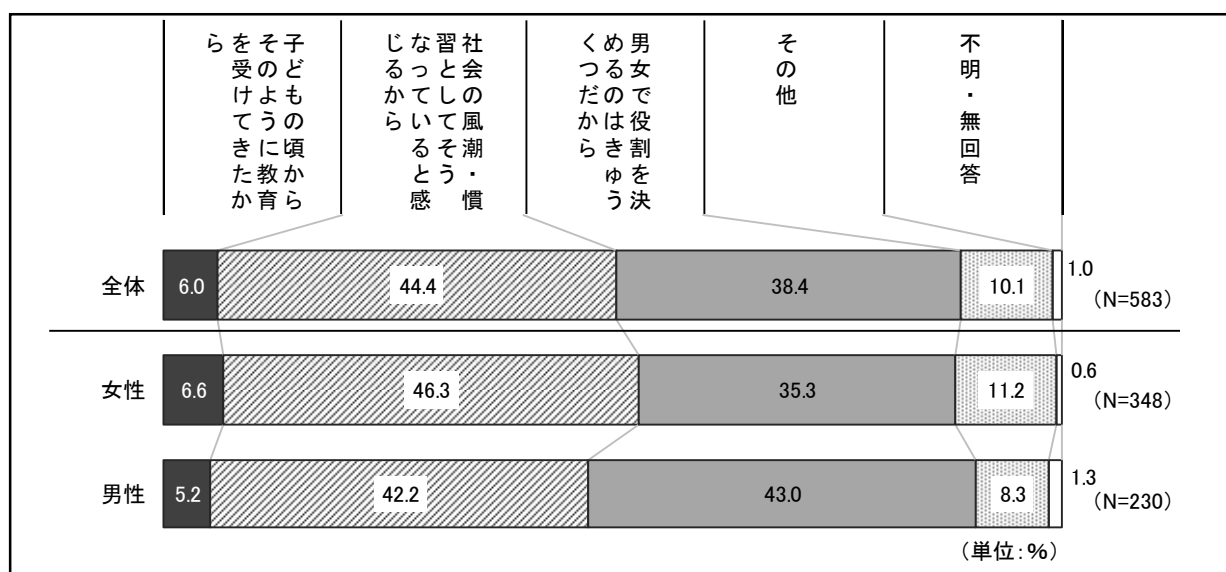


問 27 で「どちらかといえば同感しない」もしくは「同感しない」と回答された方
問 27-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

■ [同感しない] と思う理由は、全体で「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が 44.4%、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が 38.4%。

[同感しない] と思う理由は、全体、女性では「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が高く、次いで「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」となっており、男性では「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」がともに4割前半となっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年代が上がるほど「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が増加する傾向にあり、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」は年齢が若いほど増加する傾向にあります。



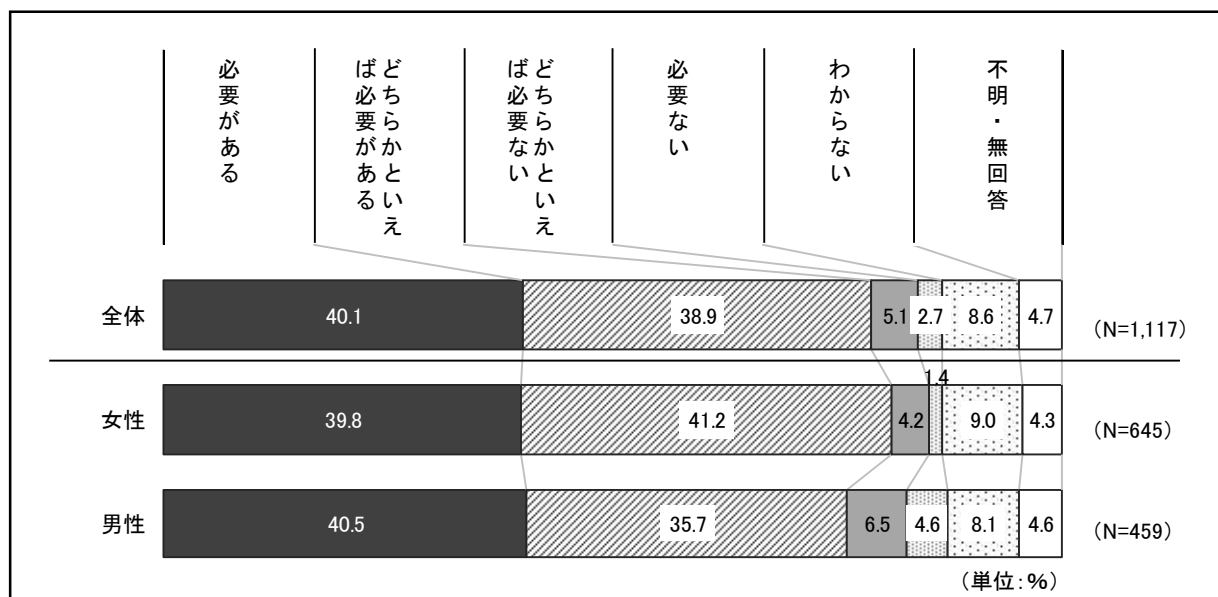
4. 地域活動や健康、老後の暮らしについて

問 28 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。
(○は1つ)

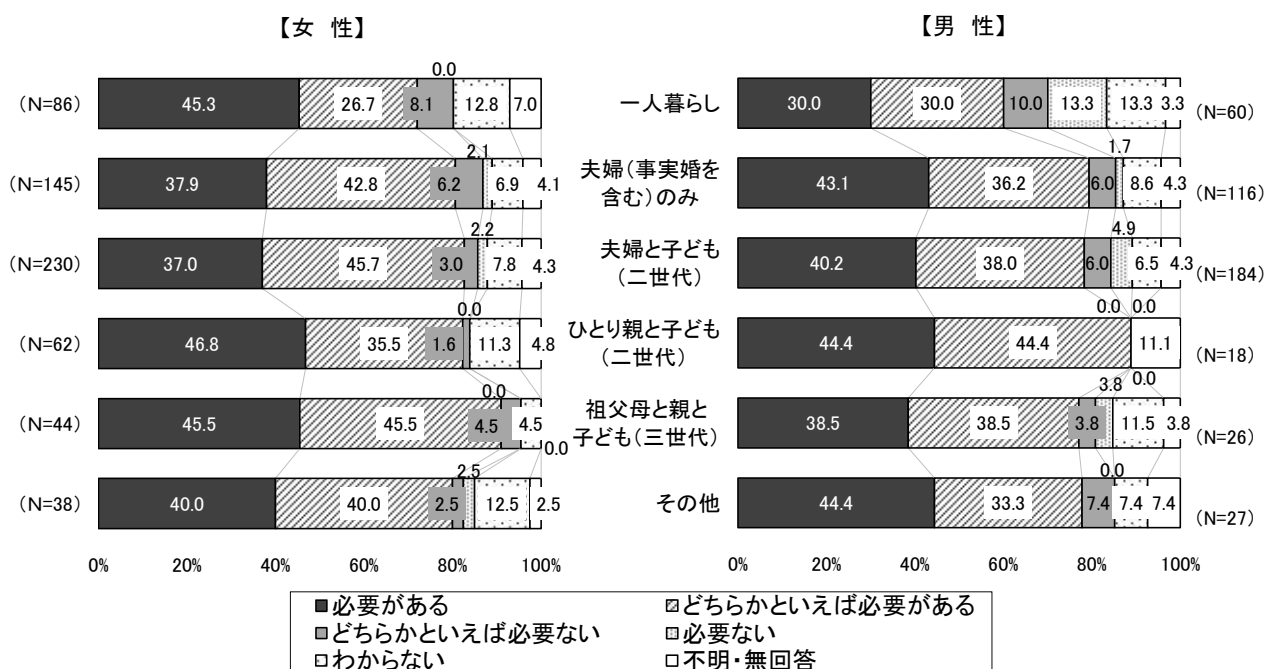
■約8割が性別に配慮した防災・災害復興対策の「必要がある」と考えている。

全体、男女ともに「必要がある」(「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」の合計)が7割後半から8割前半を占めています。また、「必要ない」(「必要ない」と「どちらかといえば必要ない」の合計)は女性で5.6%、男性で11.1%と、わずかですが男性の方が高くなっています。

性別・世帯構成別にみると、一人暮らしでは他の世帯構成に比べて「必要ない」と考える割合が高くなっています。



性別・世帯構成別(問5)

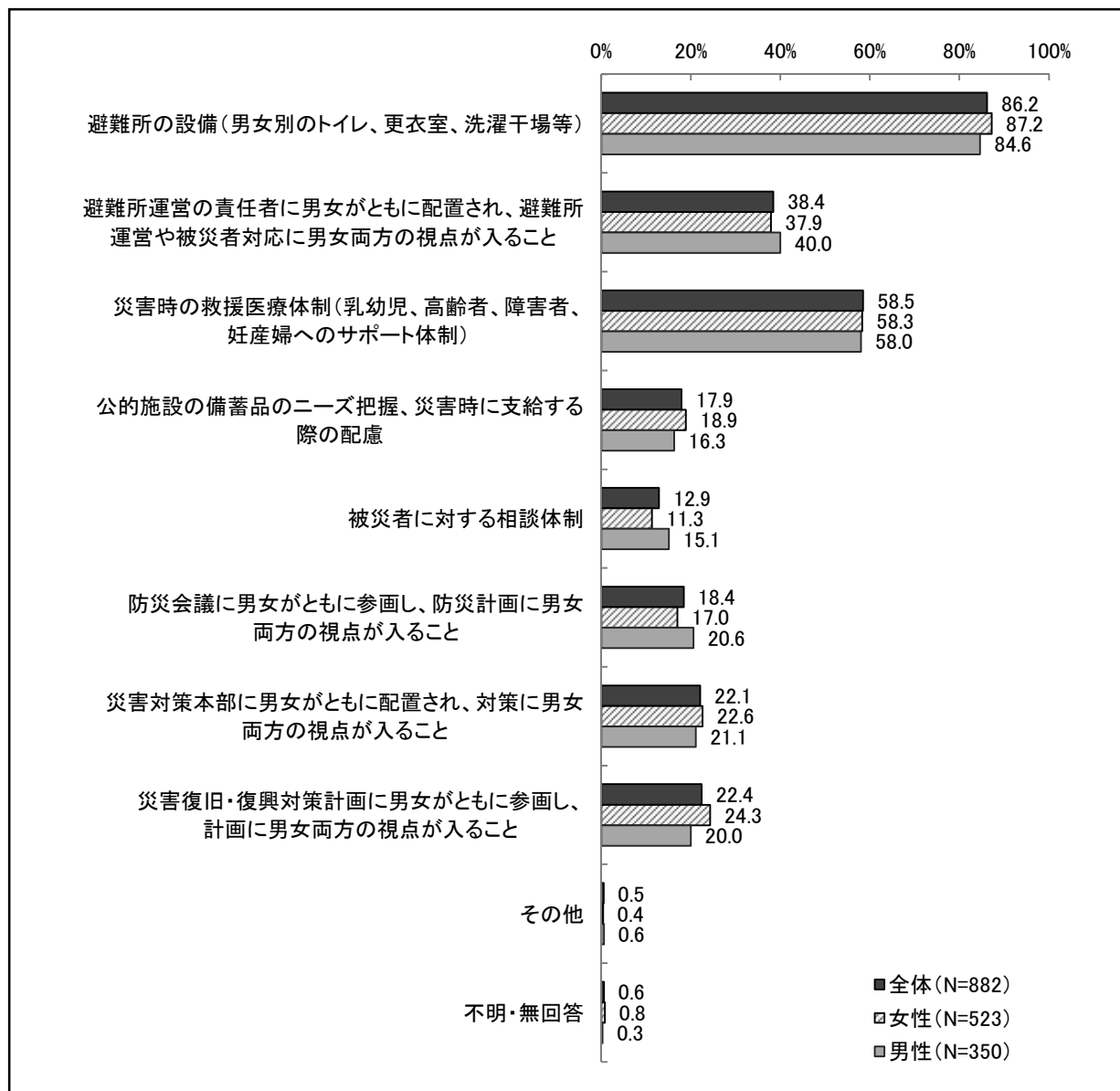


問 28 で「必要がある」もしくは「どちらかといえば必要がある」と回答された方

問 28－1 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

■避難所の設備や運営、災害時の救援医療体制の必要性が高い。

全体、男女ともに「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）」が最も高く8割半ばから8割後半となっており、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」となっています。



問 29 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。
 (①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

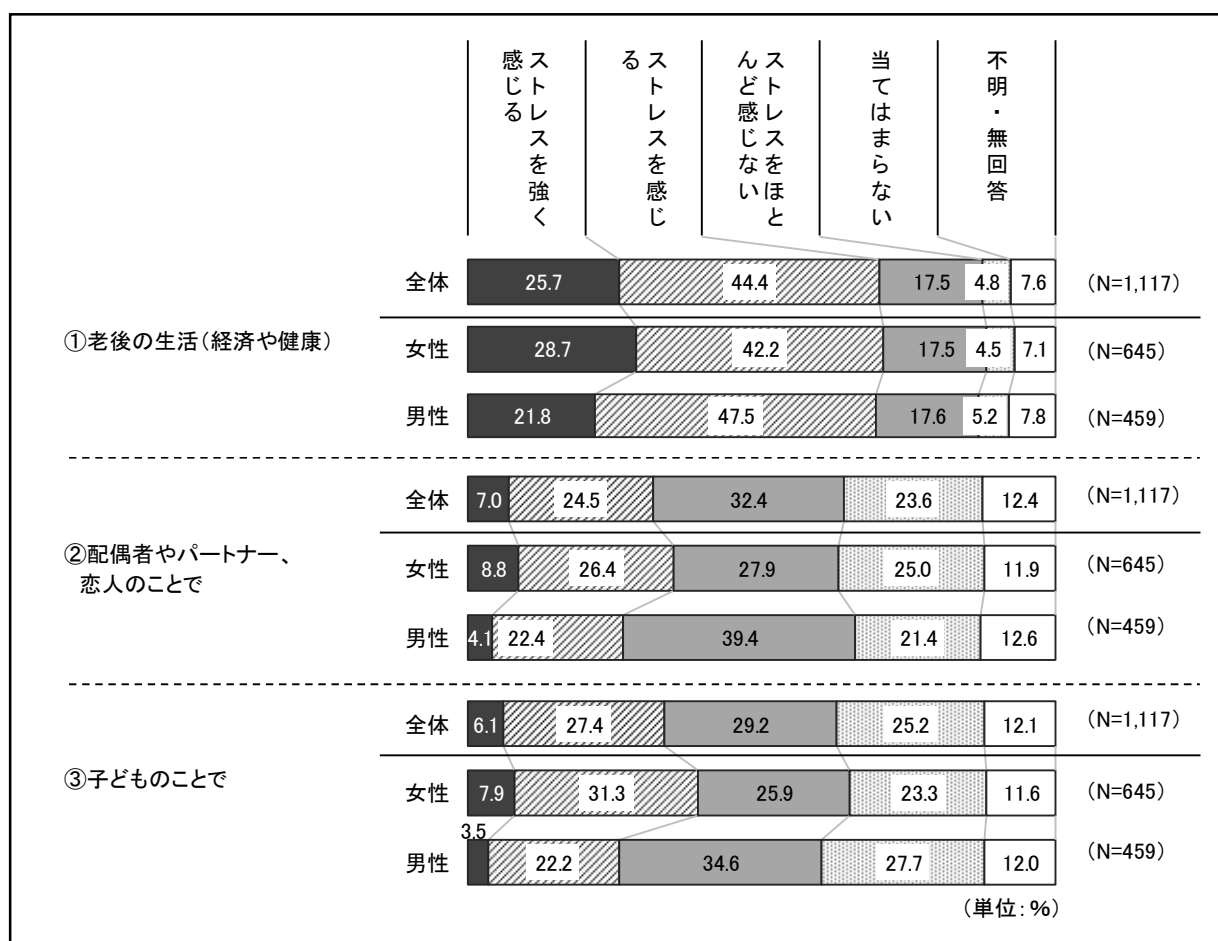
■『老後の生活（経済や健康）』『経済的なことで』に強いストレスを感じている。

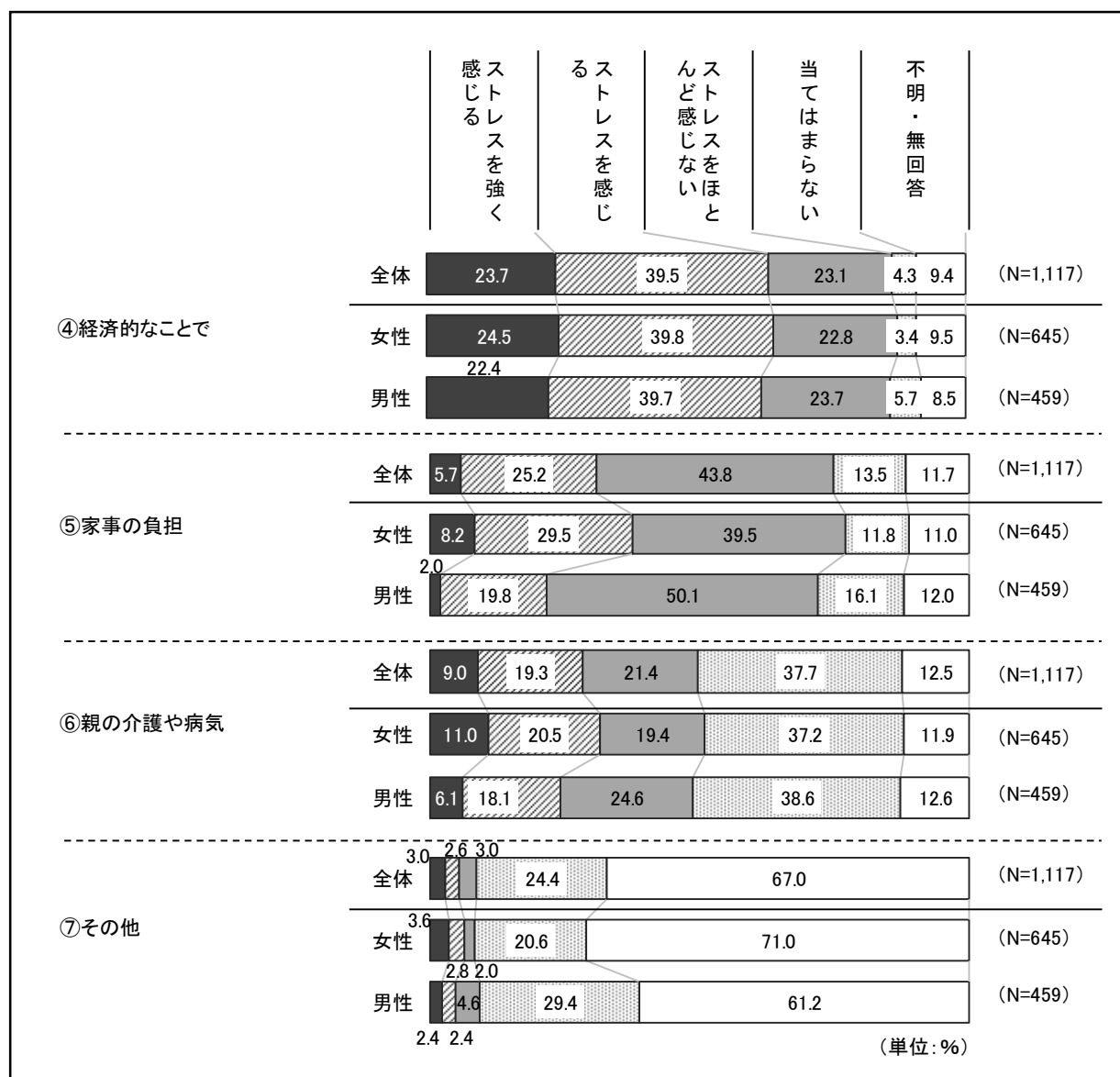
『子どものことで』『家事の負担』はすべての年代で女性の方が強いストレスを感じている。

男女ともに「ストレスを感じる」（「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」の合計）が最も高いのは『①老後の生活（経済や健康）』、次いで『④経済的なことで』となっています。また、『⑤家事の負担』で「ストレスを感じる」のは、女性で37.7%、男性で21.8%と女性の方が15.9ポイント高くなっています。

性別・年齢別の状況をストレス強度係数により分析すると、「ストレスを感じる」割合の高い『①老後の生活（経済や健康）』は男女ともに50～59歳で、『④経済的なことで』は男女ともに50～59歳で数値が高くなっています。また、『③子どものことで』『⑤家事の負担』はすべての年代で男性より女性の数値が高くなっています。

性別・就業形態別の状況をストレス強度係数により分析すると、「ストレスを感じる」割合が最も高いのは、男女ともにパート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）の『①老後の生活（経済や健康）』ですべての勤務形態では男性より女性の数値が高くなっています。





性別・年齢別

生活の中で、どのようなことにストレス（不安や悩み）を感じているか、ストレスの強さを属性性別で一覧するために、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観します。

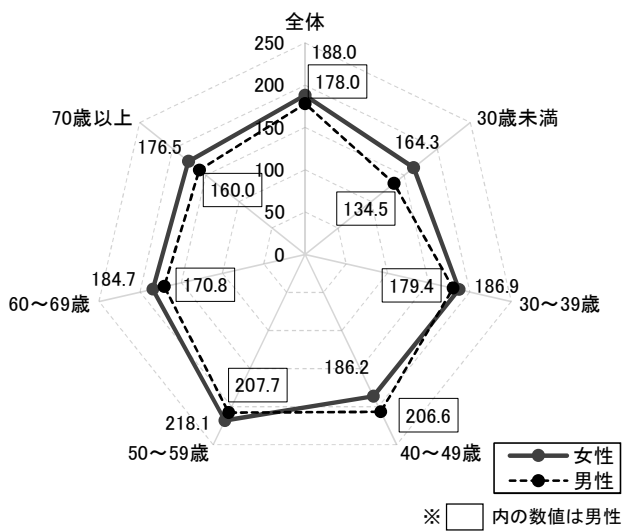
■ストレス強度係数

生活の中で感じているストレスの強さを本報告書では、『ストレス強度係数』で表しています。

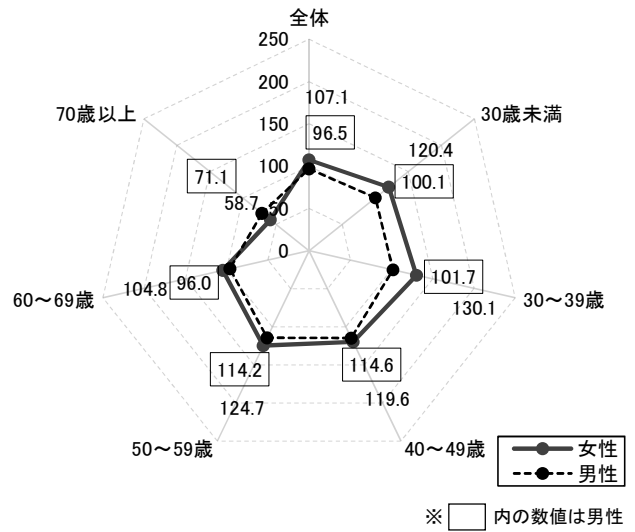
ストレス強度係数の計算方法

「ストレスを強く感じる」割合 (%)	× 3	} 合計値を 『ストレス強度係数』 とする
「ストレスを感じる」割合 (%)	× 2	
「ストレスはほとんど感じない」割合 (%)	× 1	

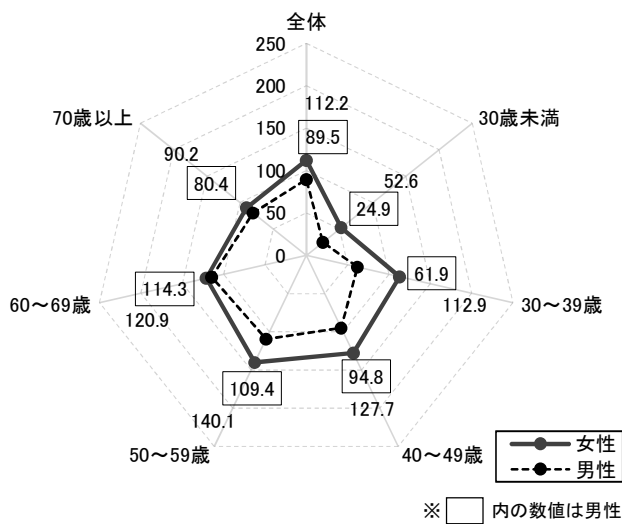
①老後の生活(経済や健康)



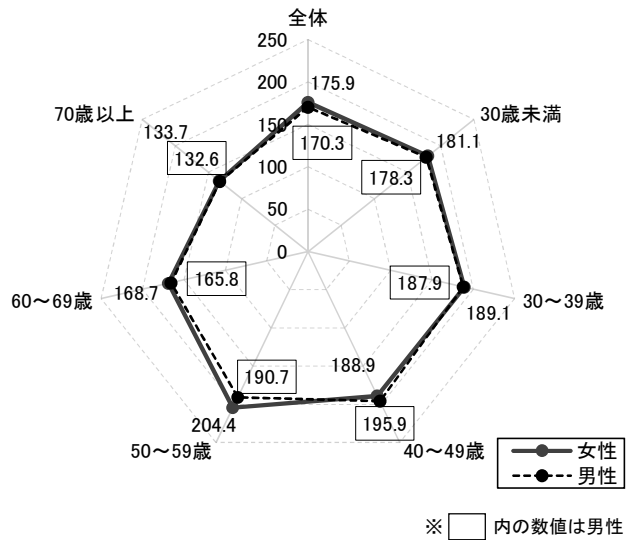
②配偶者やパートナー、恋人のことで



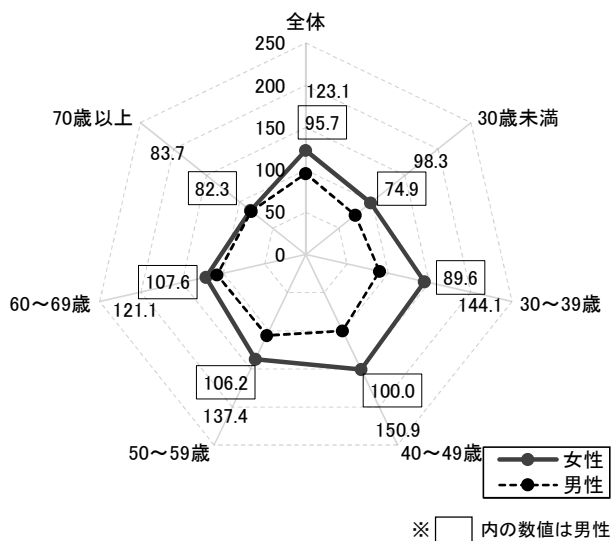
③子どものことで



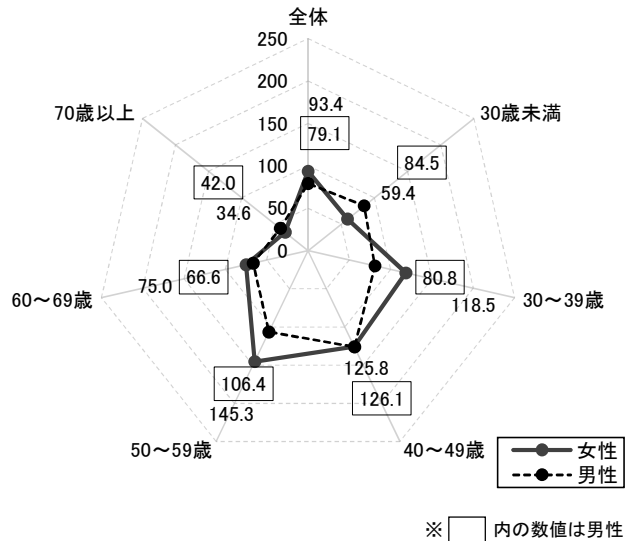
④経済的なことで



⑤家事の負担



⑥親の介護や病気



性別・就業形態別 ストレス強度係数

		対象者数（人）	① 老後の生活（経済や健康）	② 配偶者やパートナー、 恋人のことで	③ 子どものことで	④ 経済的なことで	⑤ 家事の負担	⑥ 親の介護や病気
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	189.6	121.0	95.0	191.5	136.6	109.6
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	220.4	113.0	114.8	203.8	131.5	120.4
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	199.9	120.4	128.9	198.2	133.9	116.2
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	187.5	100.0	112.7	168.9	150.3	112.8
	自営業の手伝い、家族従業員	25	184.0	104.0	136.0	160.0	136.0	80.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	187.6	108.9	90.2	175.2	100.6	106.2
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	220.0	95.0	75.0	180.0	75.0	55.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	185.8	99.9	78.6	171.5	85.7	89.3
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	171.8	105.3	124.4	166.7	105.3	86.1
	自営業の手伝い、家族従業員	6	150.0	100.1	66.7	199.8	66.7	83.4

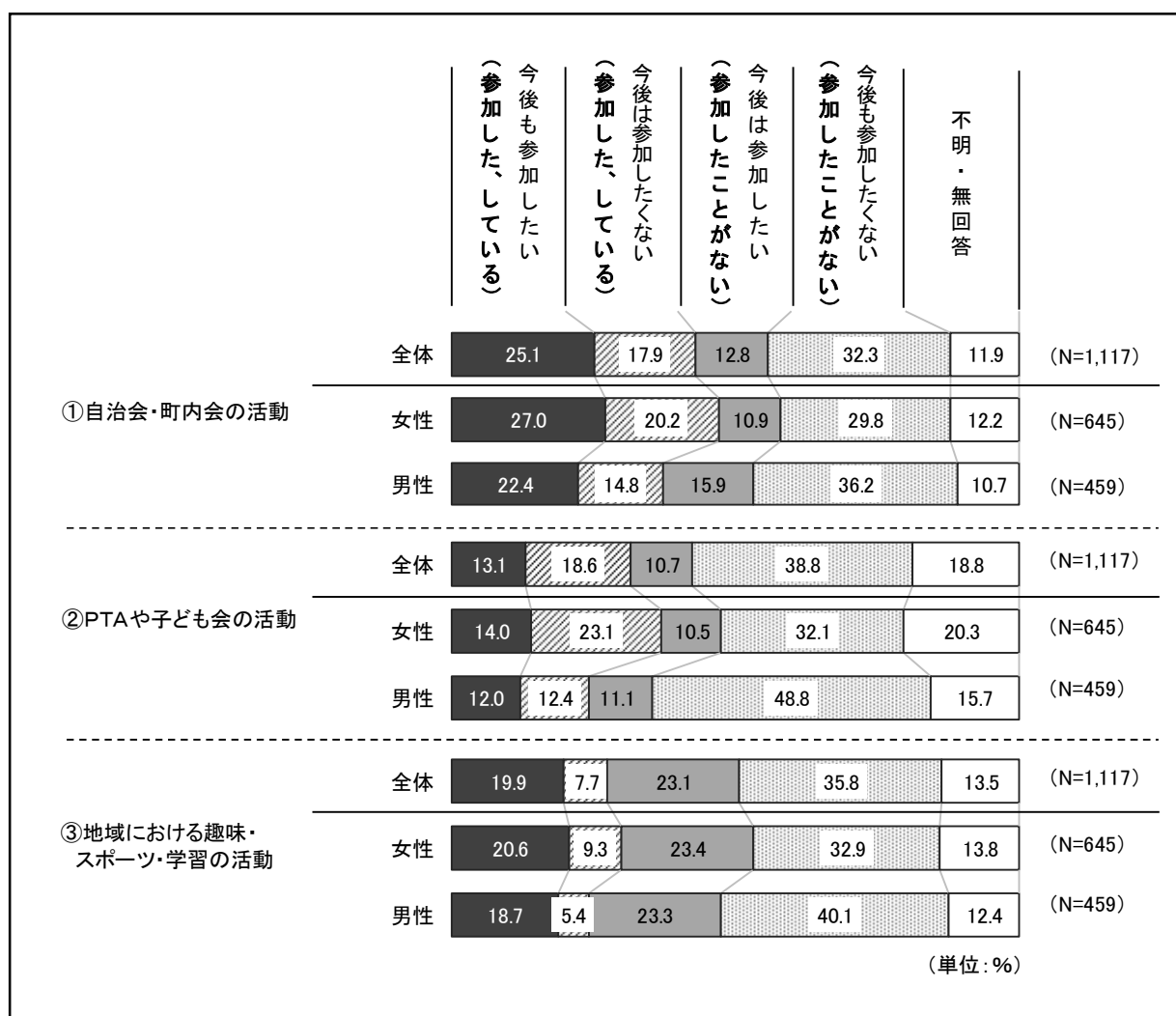
問 30 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。
(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

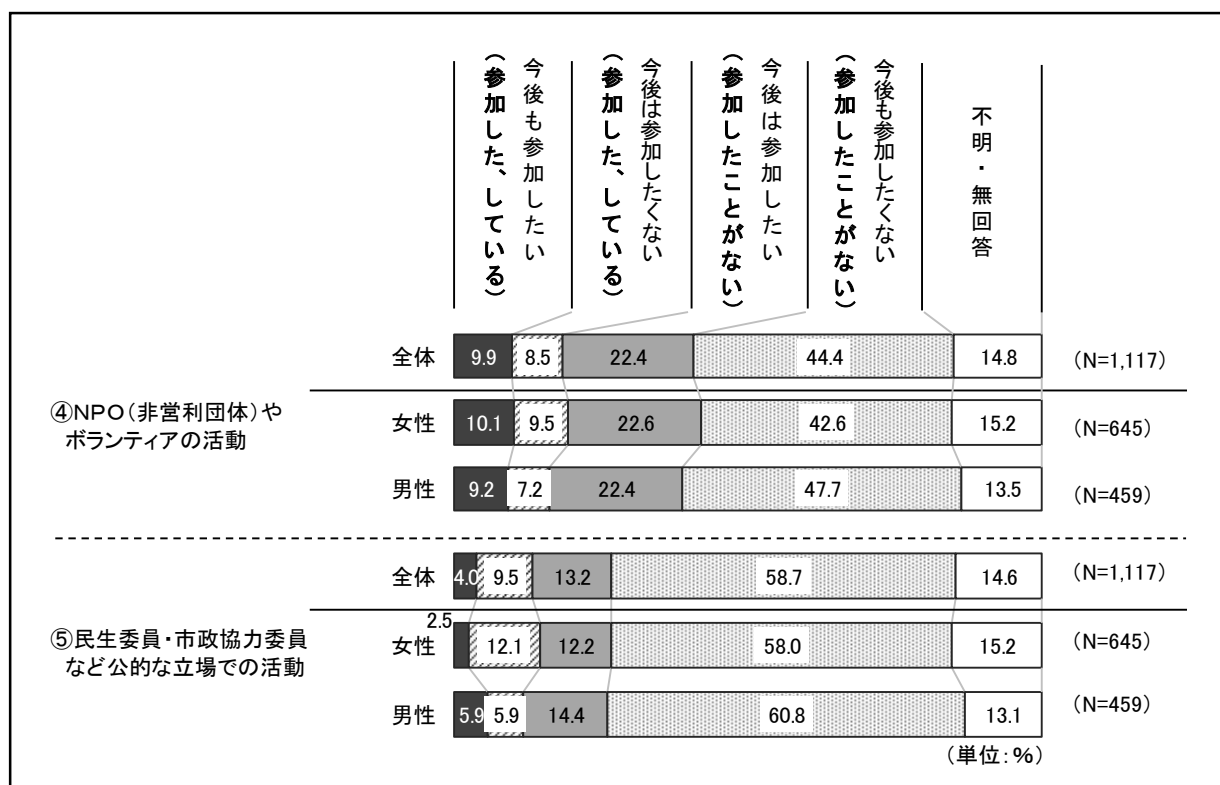
■『地域における趣味・スポーツ・学習の活動』への参加意向が高い。

『民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』への参加意向が低い。

全体、男女ともに「参加した、している」「今後も参加したい(参加した、している)」と「今後は参加したくない(参加した、している)」の合計は『①自治会・町内会の活動』で高くなっています。今後の参加意向について「今後参加したい」「今後も参加したい(参加した、している)」と「今後は参加したい(参加したことがない)」の合計は『③地域における趣味・スポーツ・学習の活動』が、「今後参加したくない」「今後は参加したくない(参加した、している)」と「今後も参加したくない(参加したことがない)」の合計は『⑤民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』が男女ともに高くなっています。

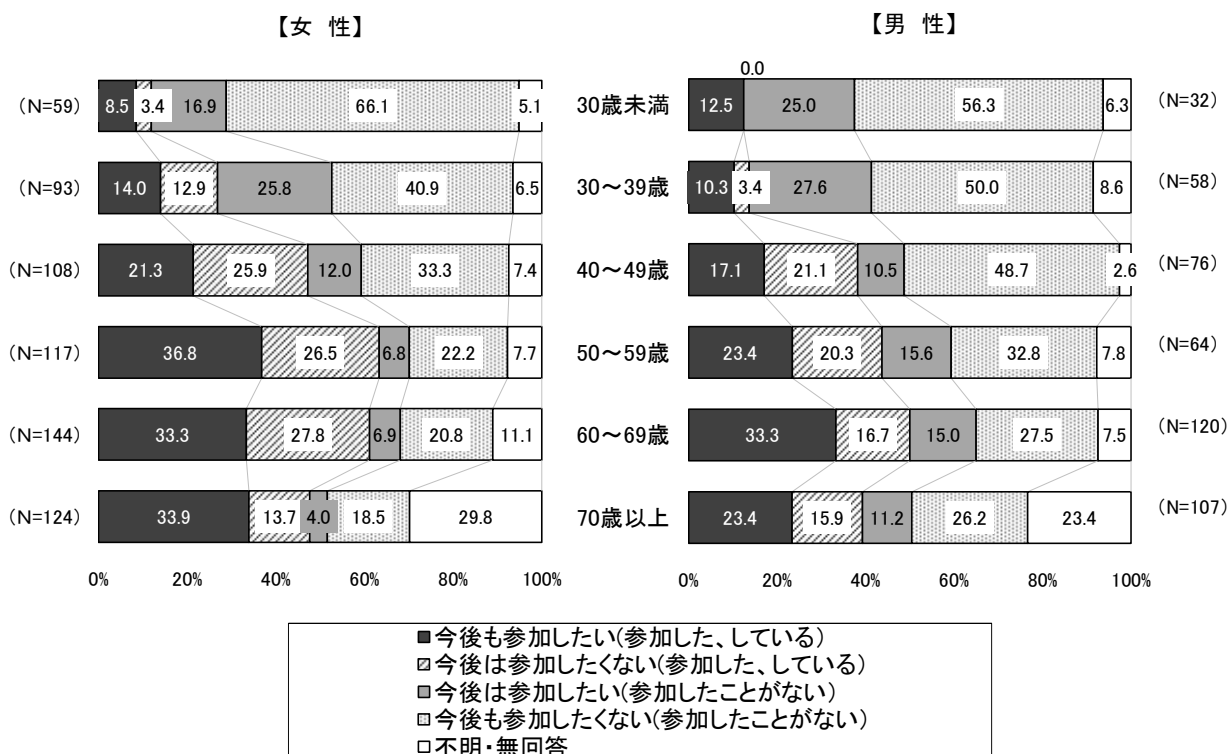
性別・年齢別にみると、『②PTAや子ども会の活動』に「今後参加したい」状況では60歳未満では男性より女性の方が高くなっていますが、60歳以上では男性の方が高くなっています。



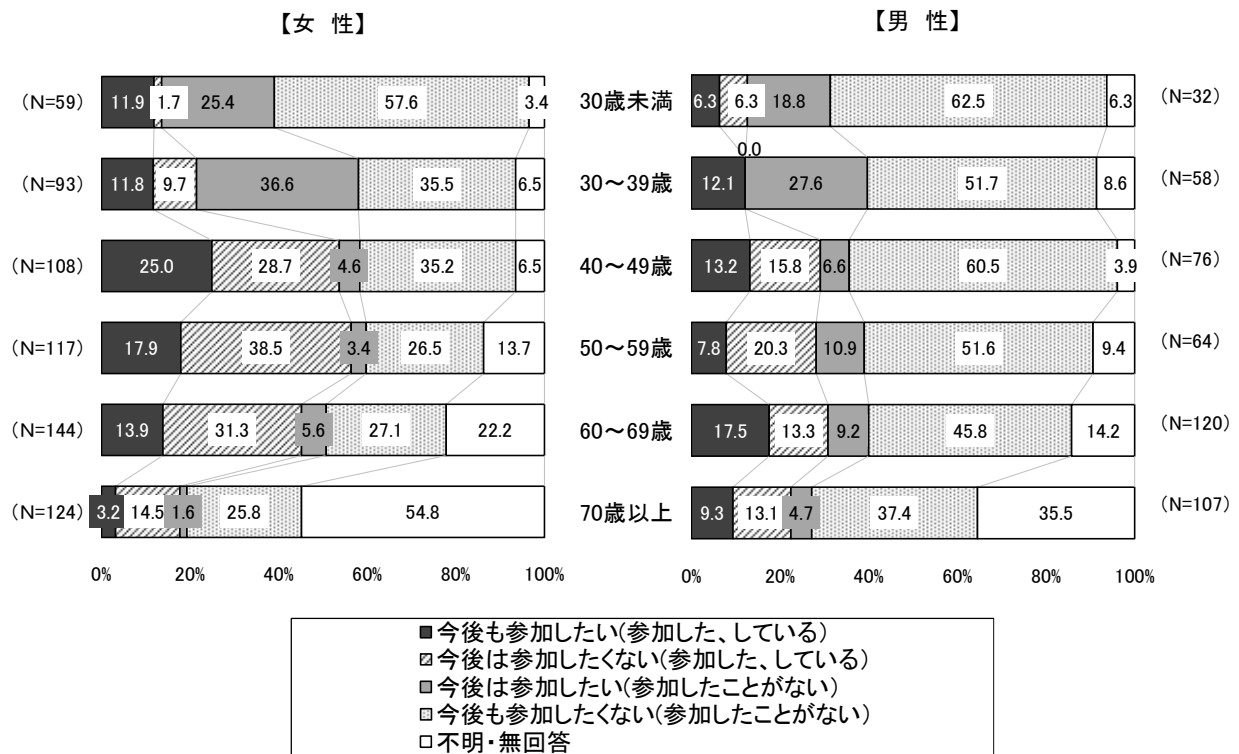


性別・年齢別

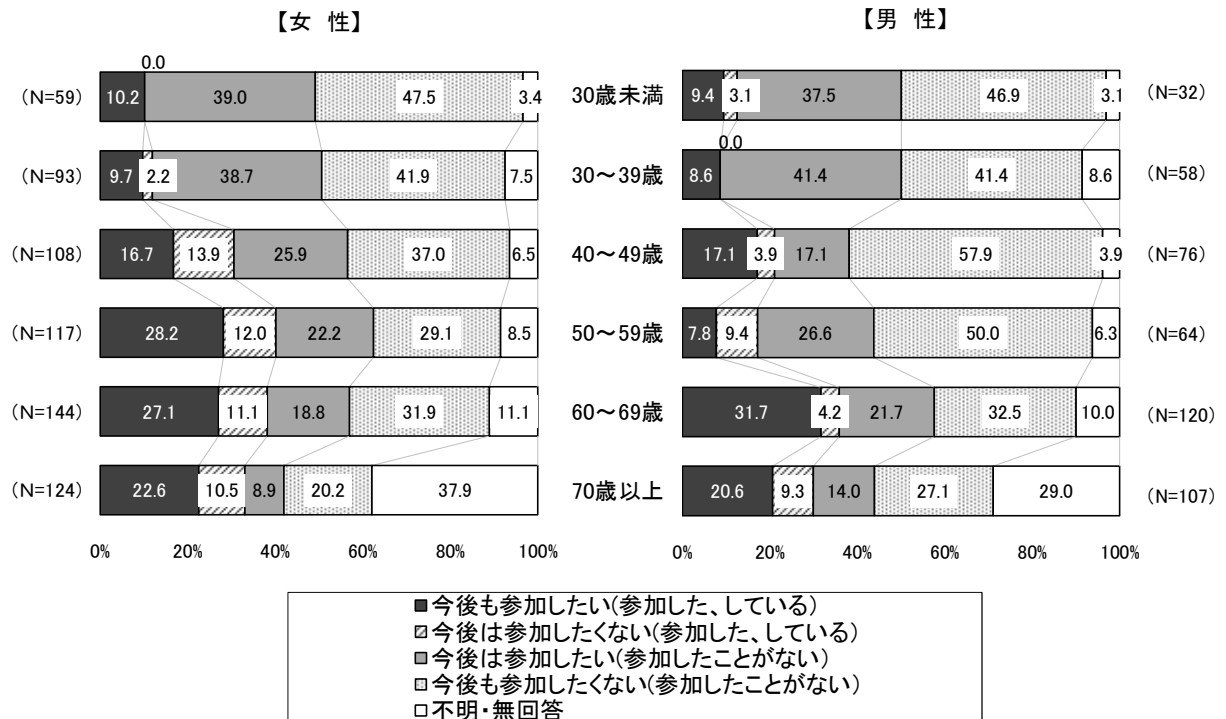
①自治会・町内会の活動



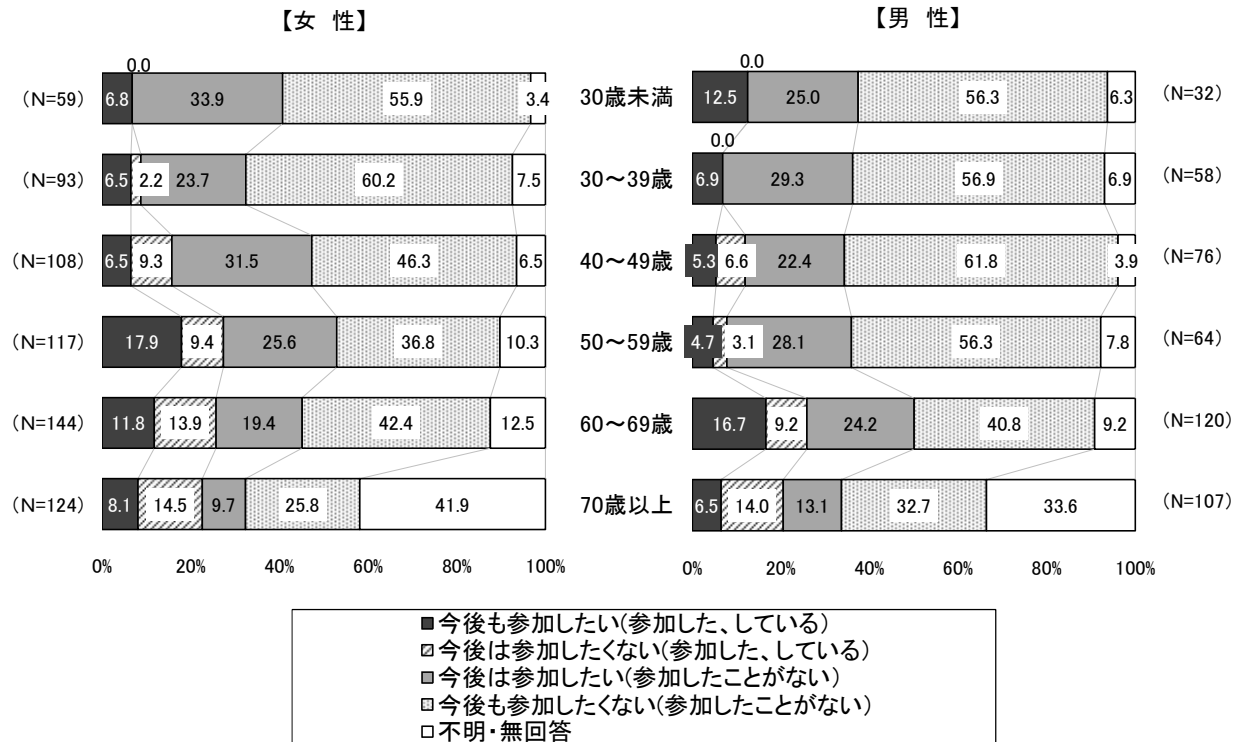
② P T A や子ども会の活動



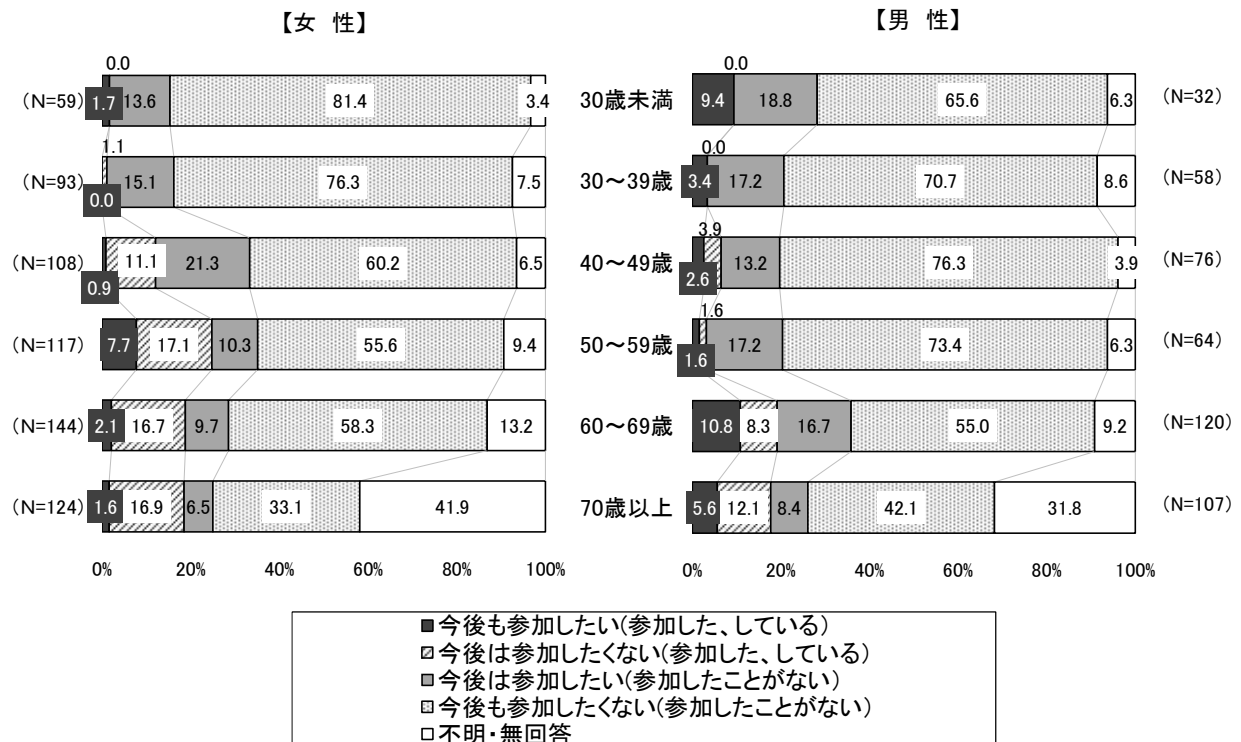
③ 地域における趣味・スポーツ・学習の活動



④ NPO（非営利団体）やボランティアの活動



⑤ 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動



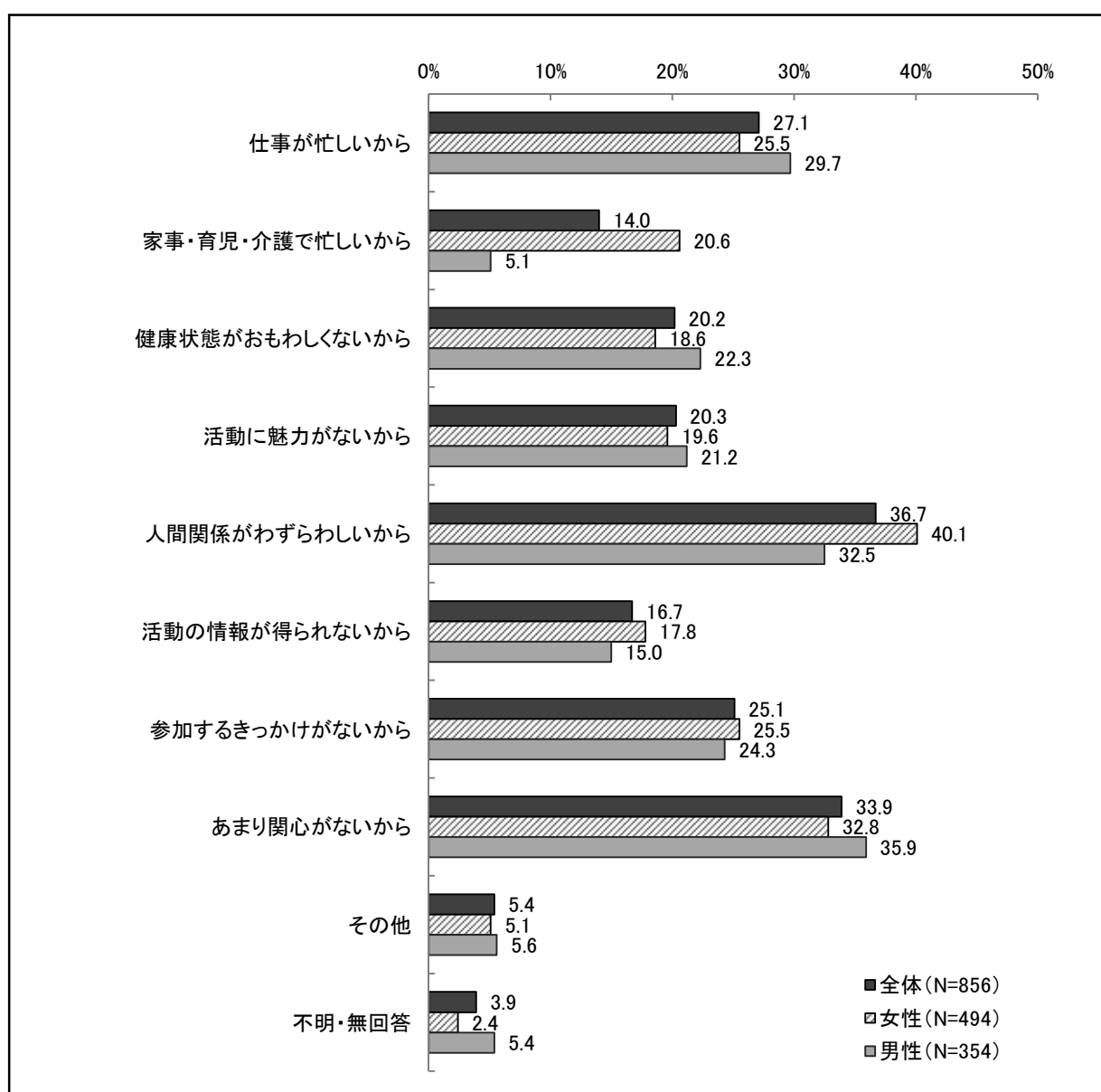
問 30 の①～⑤で「(参加した、している) 今後は参加したくない」もしくは「(参加したことがない) 今後も参加したくない」に1つ以上回答された方

問 30-1 それはどうしてですか。(〇はいくつでも)

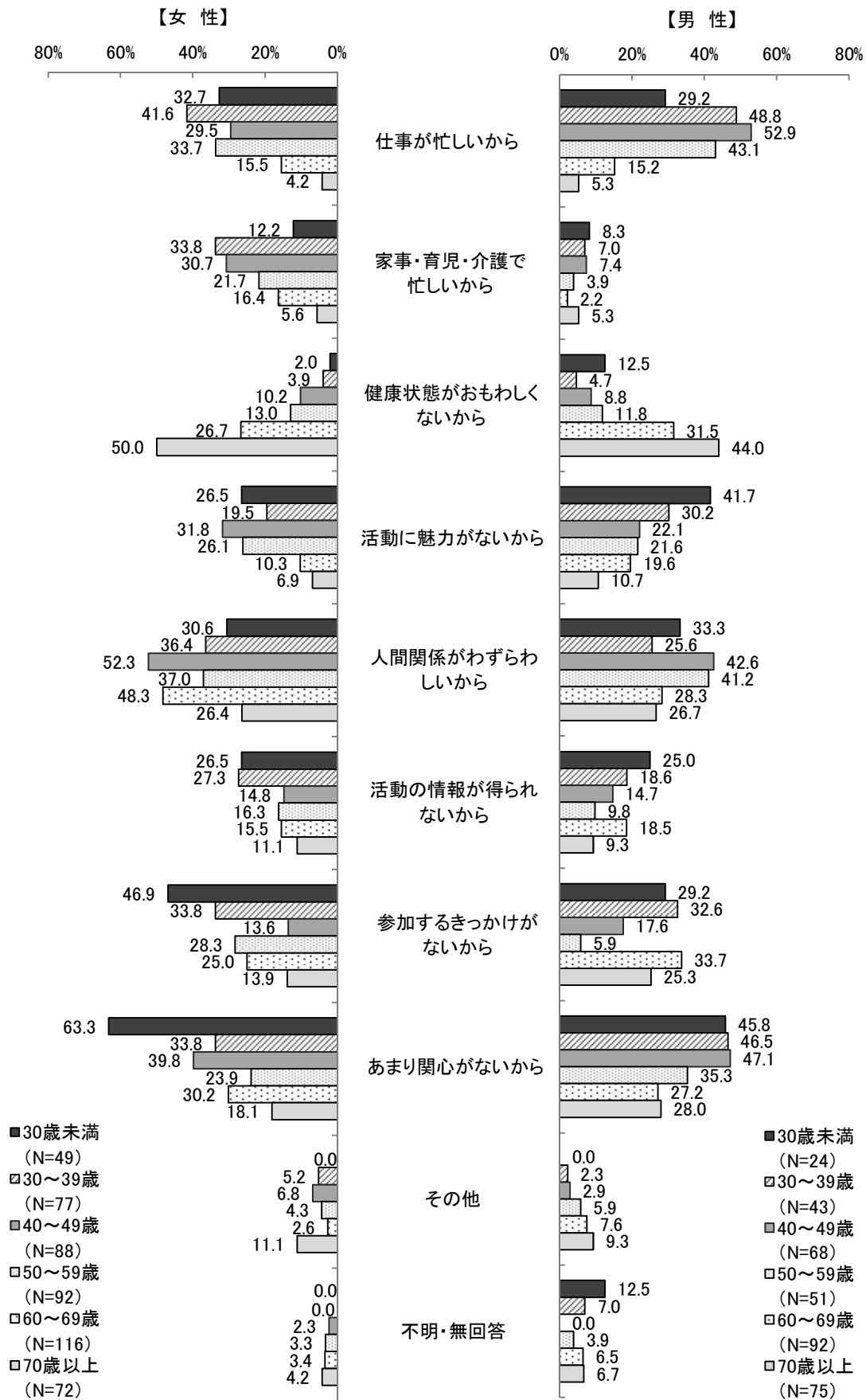
■参加したくない理由は「人間関係がわずらわしいから」「あまり関心がないから」。

女性では「人間関係がわずらわしいから」が高く、次いで「あまり関心がないから」「仕事が忙しいから」「参加するきっかけがないから」、男性では「あまり関心がないから」が高く、次いで「人間関係がわずらわしいから」「仕事が忙しいから」となっており、順位は異なりますが上位項目は同様です。

性別・年齢別にみると、「あまり関心がないから」は女性の30歳未満で特に高く、男性でも50歳未満で他の年代に比べて高くなっています。また、「仕事が忙しいから」は男性の40～49歳にかけて割合が高くなり、60歳以降は減少しています。「家事・育児・介護で忙しいから」は女性の30歳以上50歳未満で3割前半と、他の年代に比べて高くなっています。



性別・年齢別



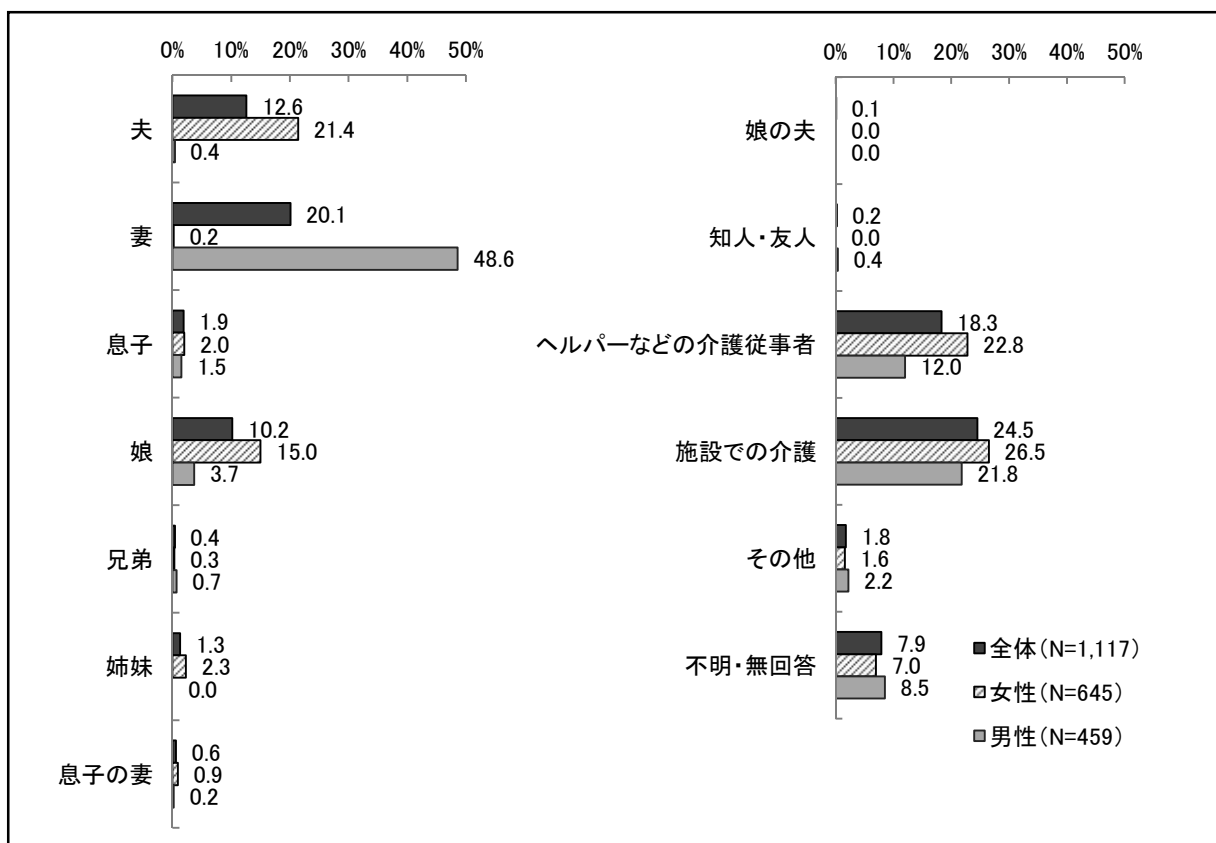
問 31 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。
(○は1つ)

■女性は「施設での介護」「ヘルパーなどの介護従事者」などの専門機関での介護を望んでいる。

男性は約半数が「妻」の介護を望んでいる。

全体、女性では「施設での介護」が高くなっていますが、男性では「妻」が 48.6%と突出して高くなっています。

性別・年齢別に上位3位をみると、男性ではすべての年代で「妻」が1位となっています。



性別・年齢別(上位3位を抜粋)

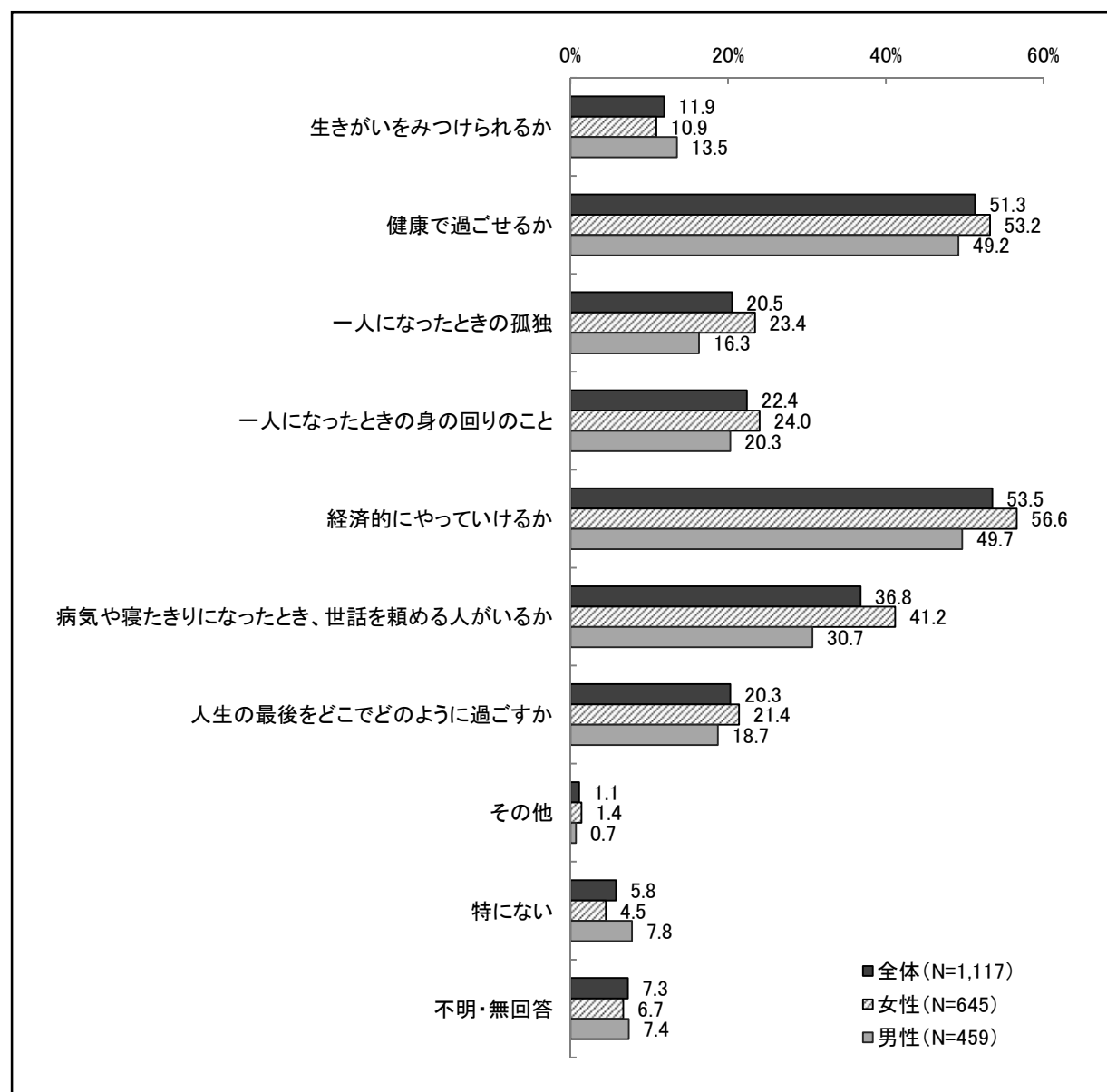
		対象者数 (人)	1位	2位	3位
女性	全体	645	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	30歳未満	59	施設での介護	夫	ヘルパーなどの介護従事者
	30～39歳	93	夫	ヘルパーなどの介護従事者	施設での介護
	40～49歳	108	夫	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	50～59歳	117	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	60～69歳	144	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	70歳以上	124	施設での介護	娘	ヘルパーなどの介護従事者
男性	全体	459	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	30歳未満	32	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	30～39歳	58	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	40～49歳	76	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	50～59歳	64	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	60～69歳	120	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	70歳以上	107	妻	施設での介護	娘

問 32 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。
(○はい/いつでも)

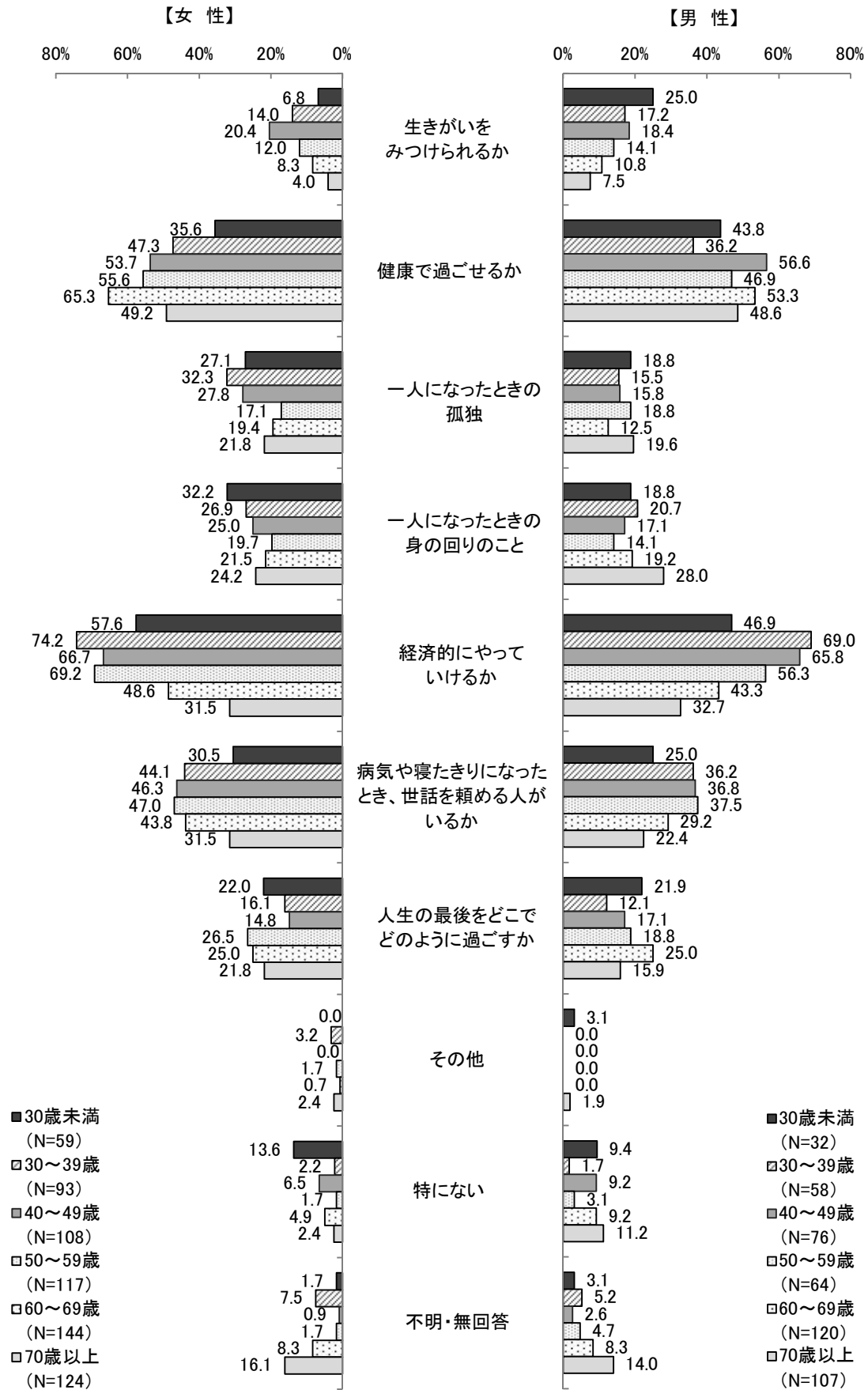
■老後の生活の不安要素は「経済的にやっていけるか」「健康で過ごせるか」となっている。

全体、男女ともに「経済的にやっていけるか」が高く、次いで「健康で過ごせるか」となっています。「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」では女性 41.2%、男性 30.7% となっており、他の項目に比べて回答に男女差がみられます。

性別・年齢別にみると、「経済的にやっていけるか」は男女ともに 30～39 歳で高く年代が上がるほど減少する傾向にあります。



性別・年齢別

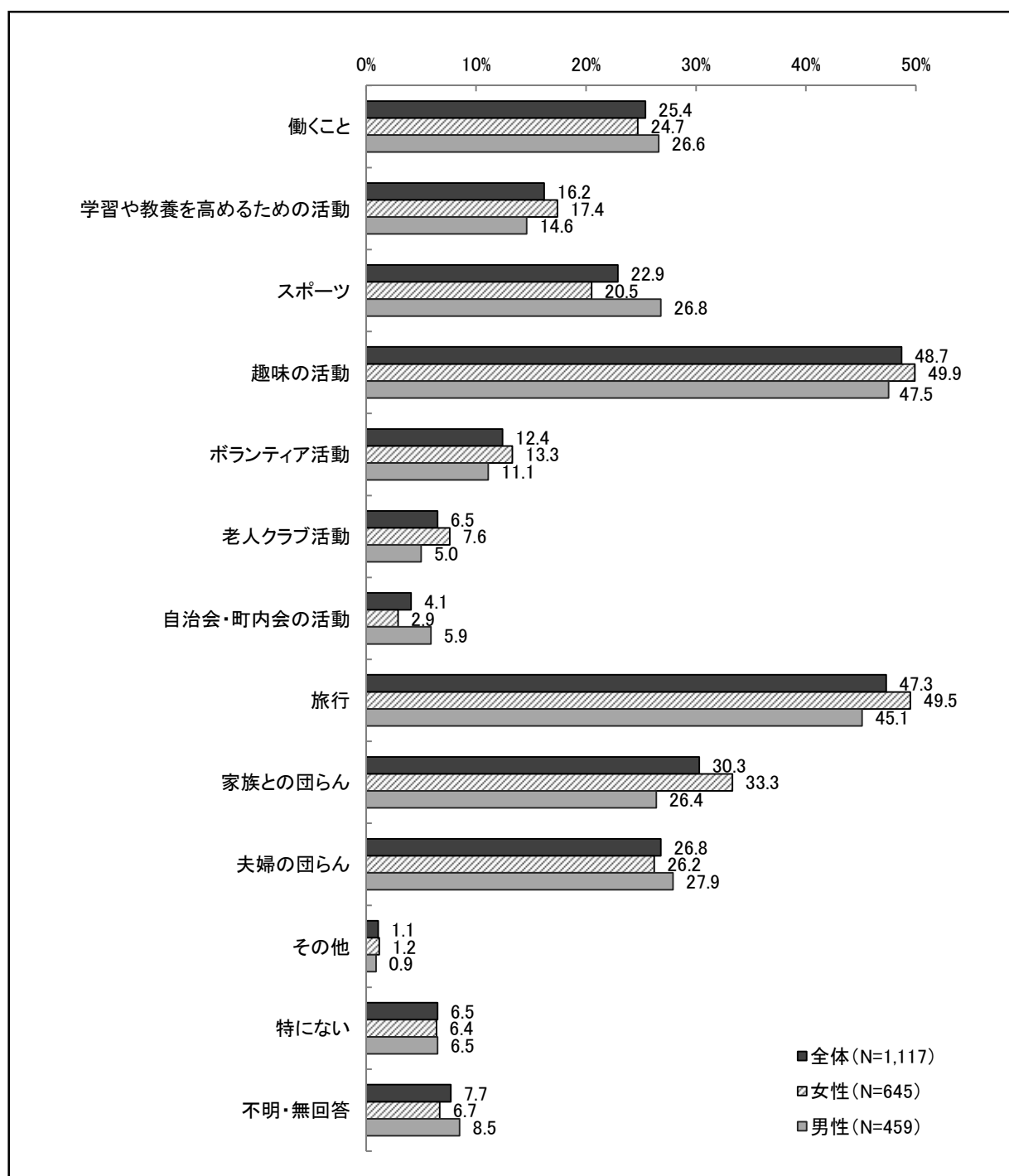


問 33 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。(〇はいくつでも)

■老後にやってみたいことは、男女ともに「趣味の活動」「旅行」となっている。

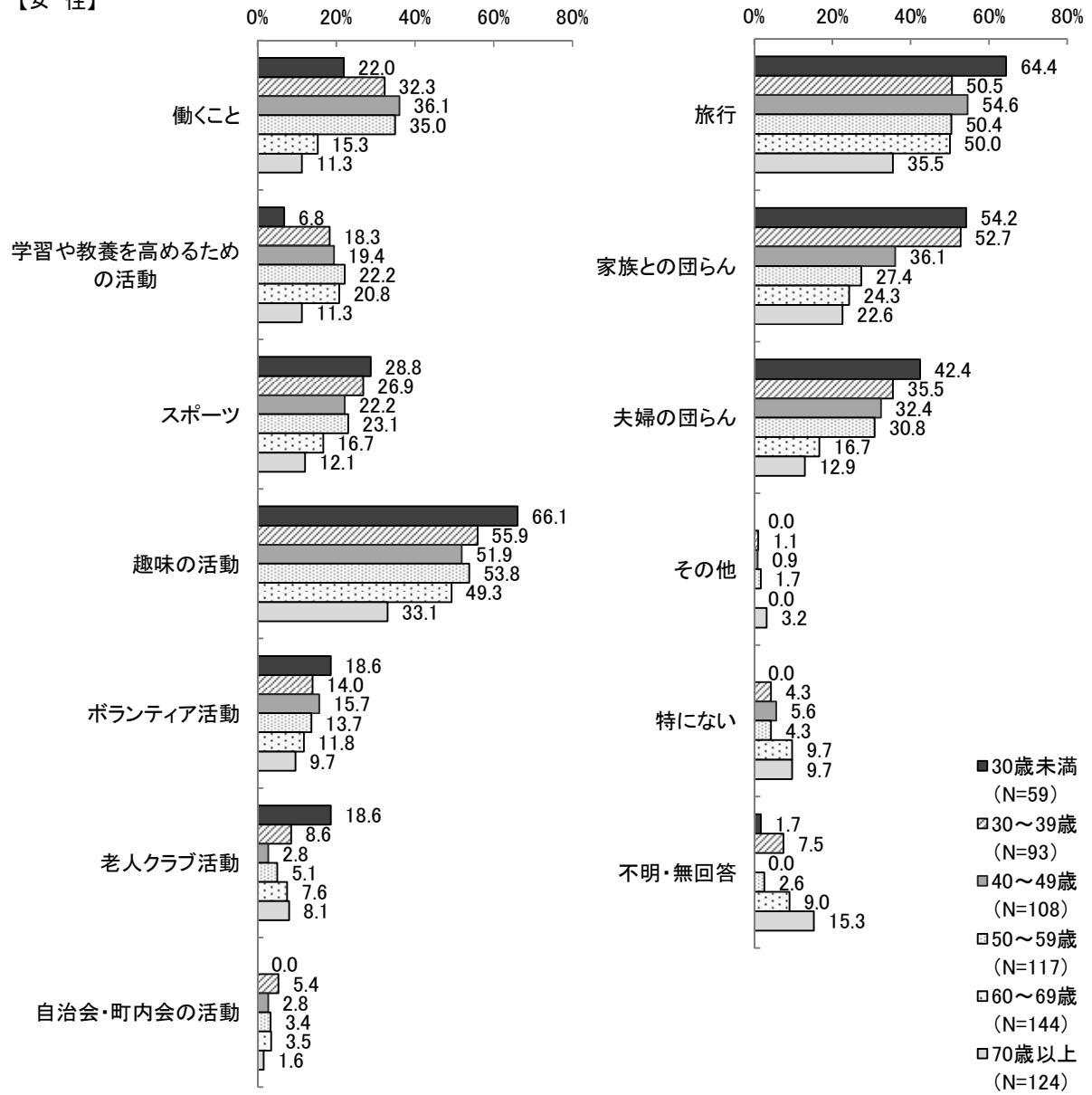
全体、男女ともに「趣味の活動」が高く、次いで「旅行」となっています。「スポーツ」では男性が女性より 6.3 ポイント高く、「家族との団らん」では女性が男性より 6.9 ポイント高くなっており、他の項目より回答に男女差がみられます。

性別・年齢別にみると、「家族との団らん」で 50 歳未満では男性よりも女性の方が高くなっていますが、50 歳以上では男性の方が高くなっています。また、「夫婦の団らん」も 60 歳未満では女性の方が高く、60 歳以上では男性の方が高くなっています。

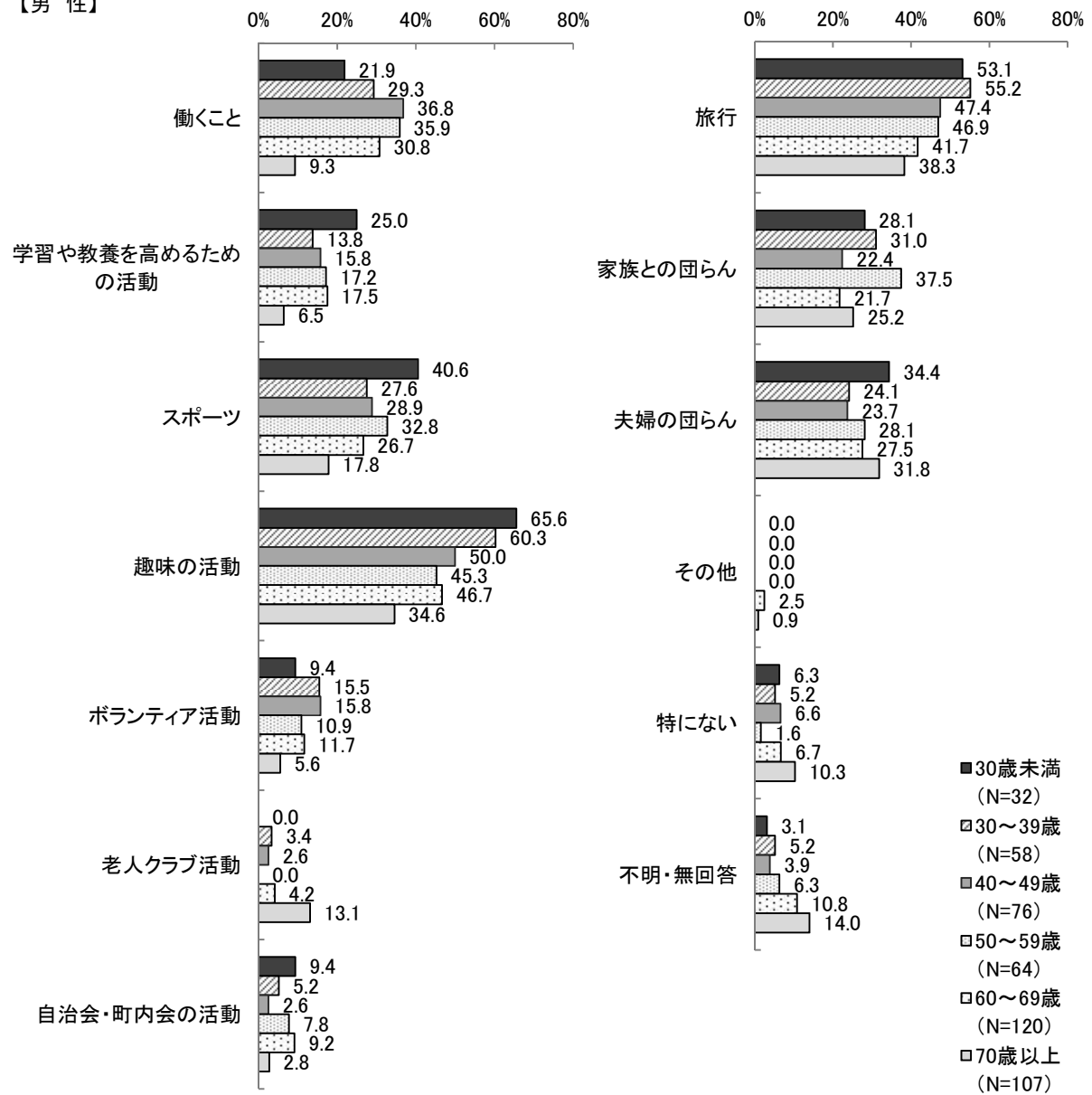


性別・年齢別

【女 性】



【男 性】



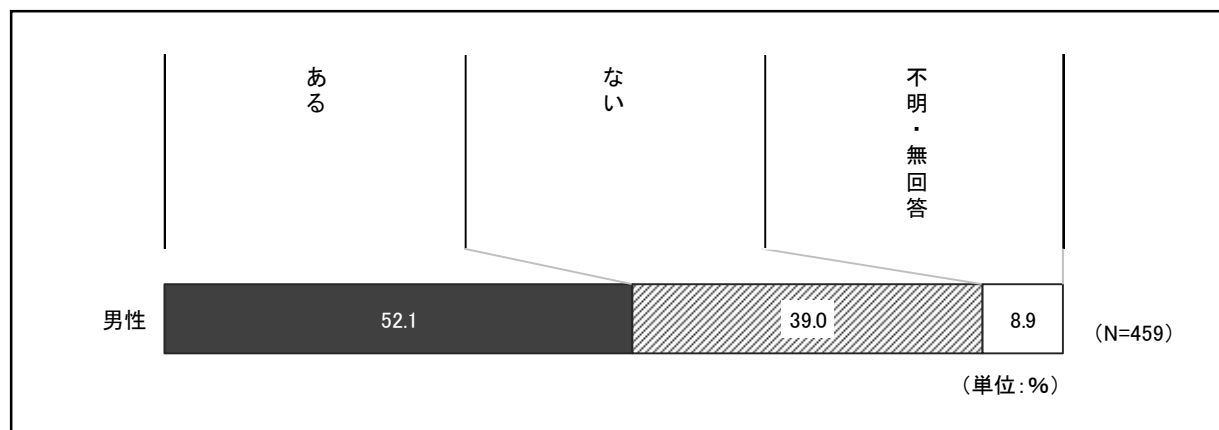
「男性」におたずねします

問 34 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

■過半数の男性が「男もつらい」と感じており、他の年代と比較して60歳未満では約7割と増加する。

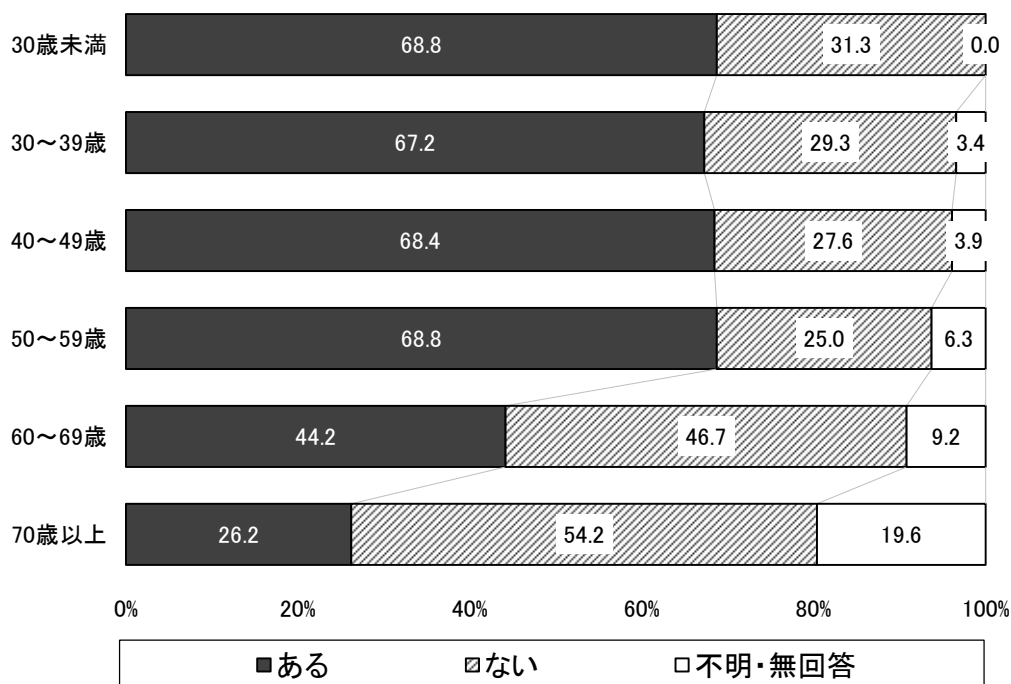
「ある」が52.1%、「ない」が39.0%と「ある」が13.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、60歳未満では「ある」が6割後半と高くなっていますが、60歳以降は「ない」の方が「ある」より高くなっています。



男性・年齢別

【男 性】



問 34 で「ある」と回答された方

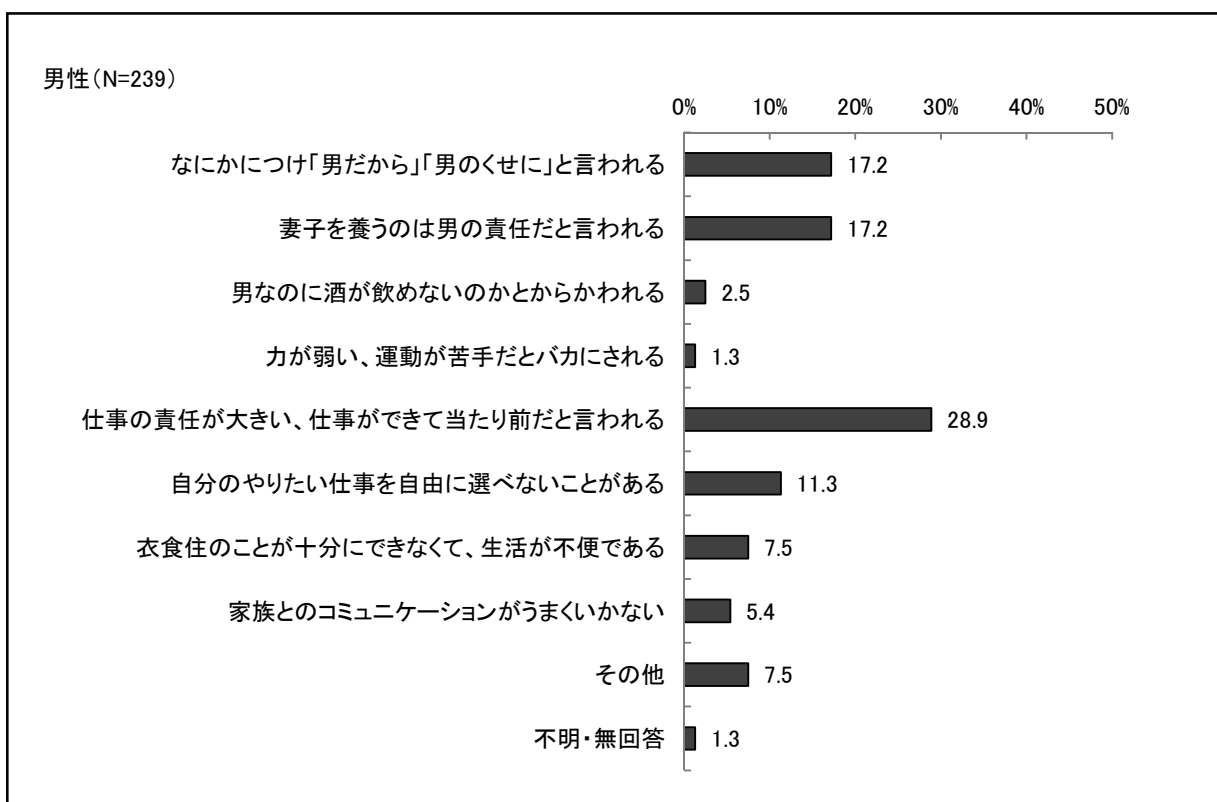
問 34－1 それはどんなことですか。(○は1つ)

■「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」が 28.9%と高く、30 歳以上 60 歳未満で増加している。

30 歳未満では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が 36.4%と高い。

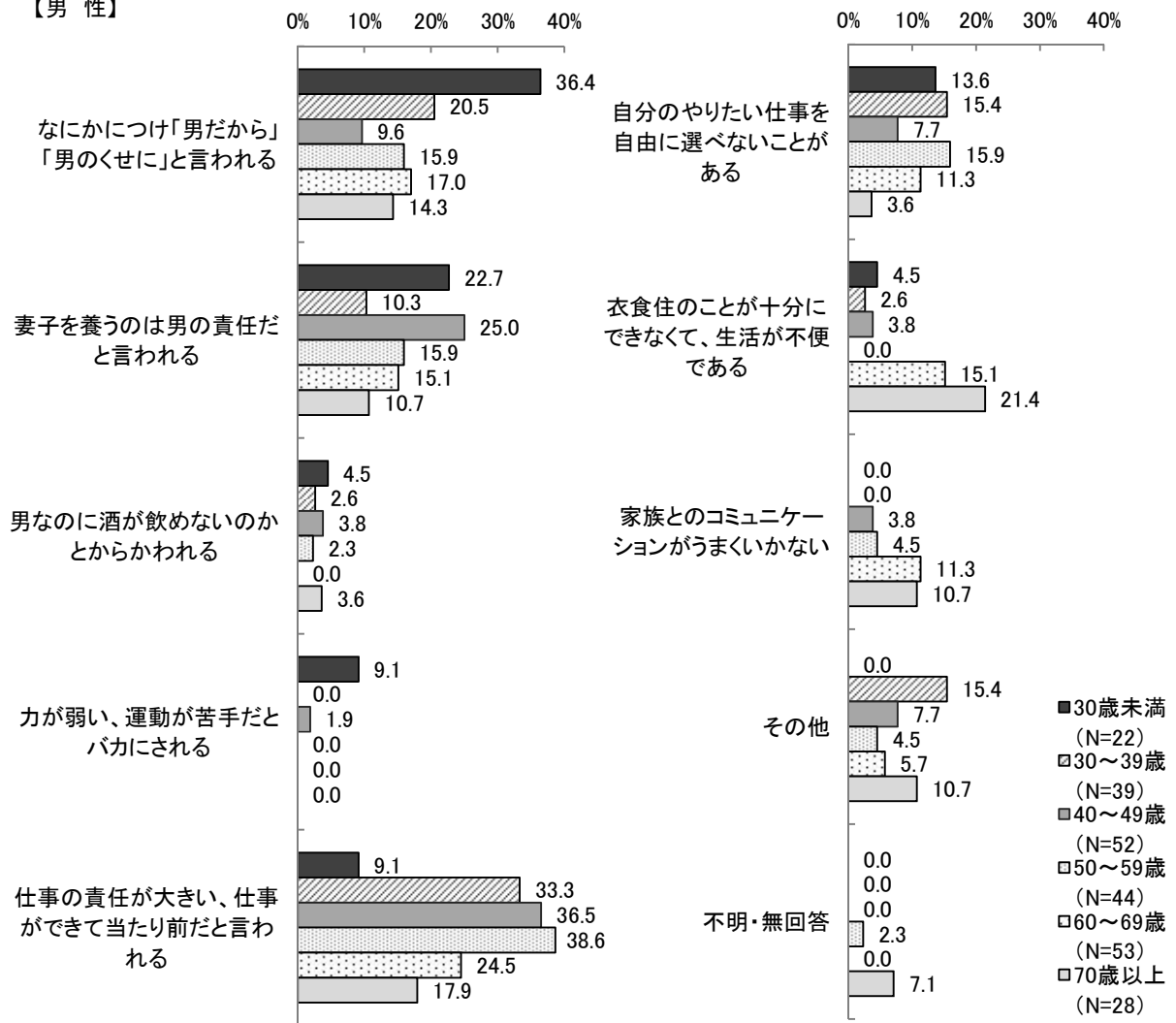
「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」が 28.9%と高く、次いで「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」「妻子を養うのは男の責任だと言われる」となっています。

年齢別にみると、30 歳未満では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が 36.4%と他の年代に比べて高い一方、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」は 9.1%と低くなっています。「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」は 30～39 歳から 50～59 歳にかけて割合が高くなっています。また、「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」では 60 歳以上で 1 割半ばかり 2 割前半と、他の年代に比べて高くなっています。



男性・年齢別

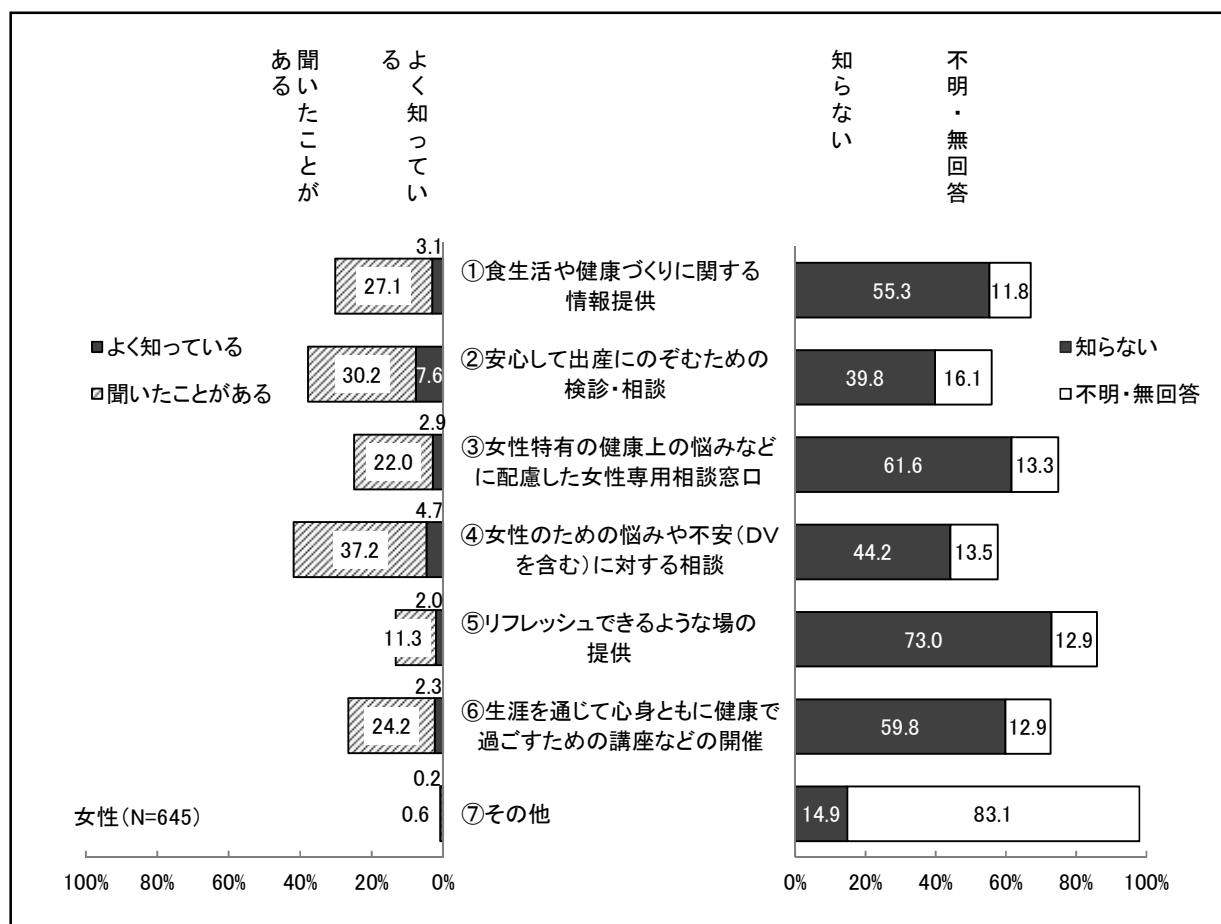
【男 性】



「女性」におたずねします

問 35 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。
 あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)
 また、利用したことがあるものには「4. 利用したことがある」にも○をつけてください。

■『女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談』を「よく知っている」のは37.2%。
 『④女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談』は「よく知っている」が37.2%と高くなっており、次いで『②安心して出産にのぞむための検診・相談』『①食生活や健康づくりに関する情報提供』となっています。また、『⑤リフレッシュできるような場の提供』は「知らない」が73.0%と認知度が低くなっています。



◆利用したことがある割合

	①食生活や健康づくりに関する情報提供	②安心して出産にのぞむための検診・相談	③女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口	④女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談	⑤リフレッシュできるような場の提供	⑥生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催	⑦その他
利用したことがある割合(%)	2.6	6.2	0.2	0.5	0.8	0.8	1.2

5. 人権の尊重について

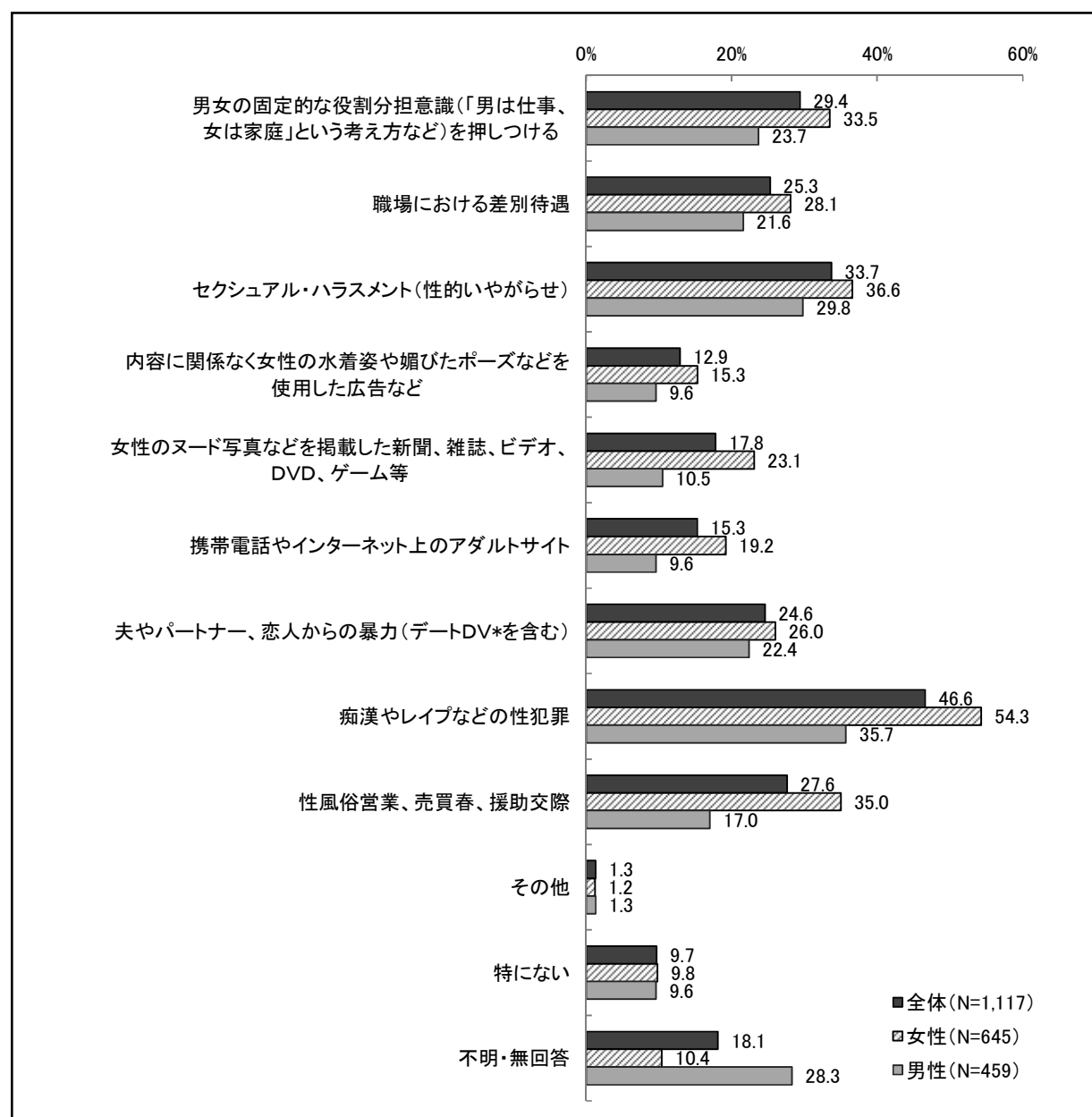
問 36 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
(○はいくつでも)

■性犯罪やセクシュアル・ハラスメント等の女性の人権に対する認識は高くても半数程度で、「特
ない」と考える人も1割程度おり、認識は高くない。

女性より男性の認識が低い。

全体、男女ともに「痴漢やレイプなどの性犯罪」が高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント
(性的いやがらせ)」となっています。すべての項目で男性より女性の割合が高く、「痴漢やレイプ
などの性犯罪」「性風俗営業、売買春、援助交際」で特に男女差が大きくなっています。また、女性
の人権が尊重されていないと感じることは「特にない」との回答は男女ともに1割近くいます。

性別・年齢別では男女ともにすべての年代で「痴漢やレイプなどの性犯罪」が高く、特に女性の
60歳未満、男性の40歳未満で5割以上と高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数（人）	男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける	職場における差別待遇	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	内容に関係なく女性の水着姿や媚びたポーズなどを使用した広告など	雑誌、ビデオ、DVD、ゲーム等	女性のヌード写真などを掲載した新聞、ポスターなど	携帯電話やインターネット上のアダルトサイト	夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）	痴漢やレイプなどの性犯罪	性風俗営業、売買春、援助交際	その他	特にない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	35.6	35.6	52.5	25.4	23.7	20.3	33.9	71.2	28.8	1.7	6.8	1.7	
	30～39歳	93	35.5	24.7	37.6	6.5	10.8	6.5	29.0	57.0	23.7	4.3	12.9	6.5	
	40～49歳	108	41.7	27.8	38.9	16.7	23.1	24.1	30.6	67.6	34.3	0.0	10.2	1.9	
	50～59歳	117	35.9	31.6	43.6	16.2	29.9	24.8	32.5	65.0	49.6	1.7	4.3	1.7	
	60～69歳	144	31.3	31.9	34.0	14.6	25.7	21.5	22.9	46.5	37.5	0.7	10.4	13.2	
	70歳以上	124	24.2	19.4	22.6	16.1	22.6	16.1	13.7	31.5	30.6	0.0	12.9	29.8	
男性	30歳未満	32	28.1	25.0	50.0	9.4	3.1	3.1	37.5	53.1	21.9	0.0	9.4	12.5	
	30～39歳	58	25.9	22.4	37.9	12.1	8.6	8.6	27.6	53.4	12.1	1.7	10.3	13.8	
	40～49歳	76	22.4	28.9	27.6	7.9	9.2	6.6	19.7	32.9	11.8	1.3	7.9	22.4	
	50～59歳	64	26.6	25.0	32.8	7.8	7.8	6.3	20.3	40.6	7.8	3.1	4.7	23.4	
	60～69歳	120	26.7	19.2	30.0	10.0	13.3	12.5	23.3	33.3	24.2	0.8	10.0	30.0	
	70歳以上	107	17.8	15.9	19.6	10.3	13.1	13.1	17.8	23.4	19.6	0.9	13.1	44.9	

（単位：％）

問 37 あなたは配偶者やパートナー、恋人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。(①～⑭の項目ごとにあてはまるものすべてに○)

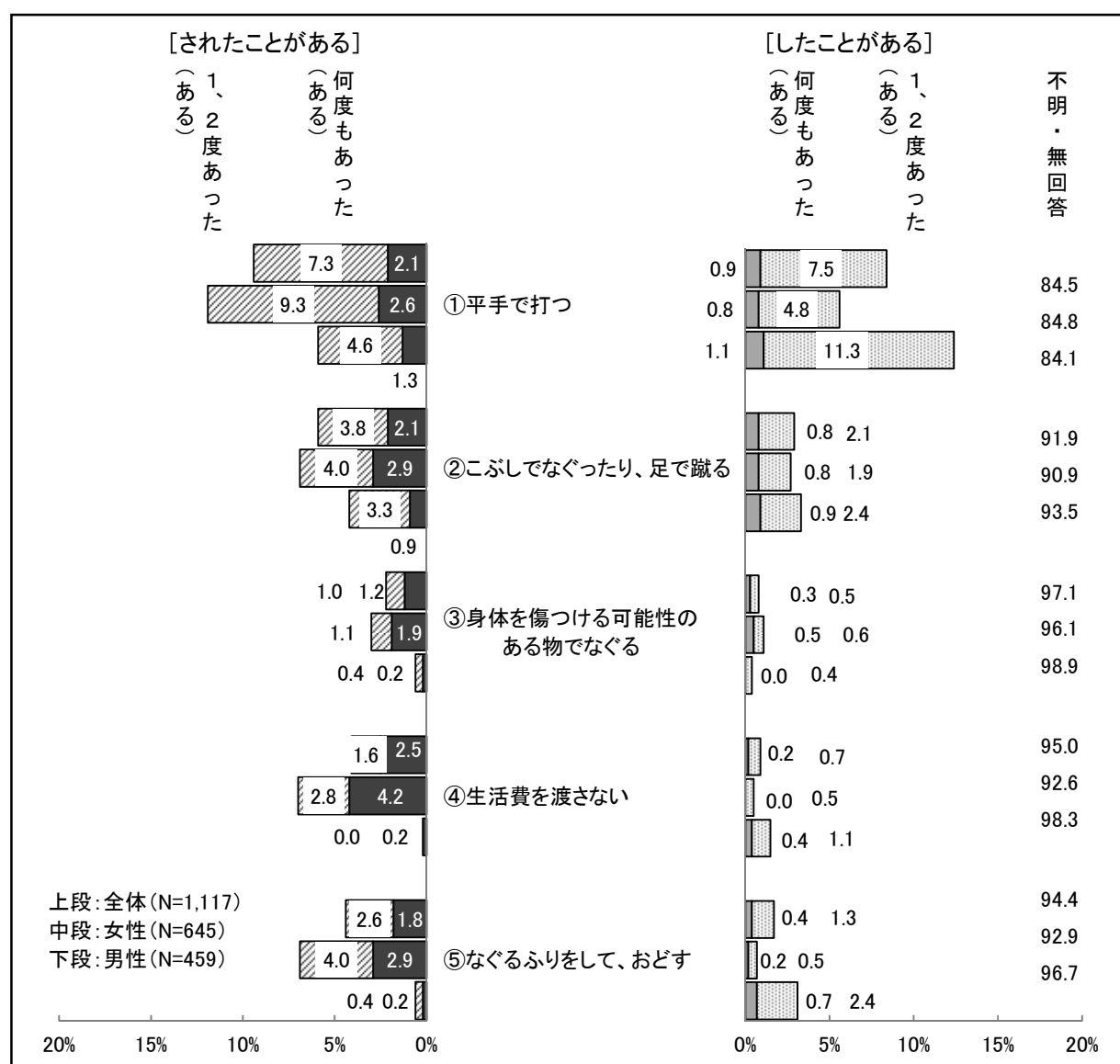
■暴力の被害経験は男性より女性が多い。

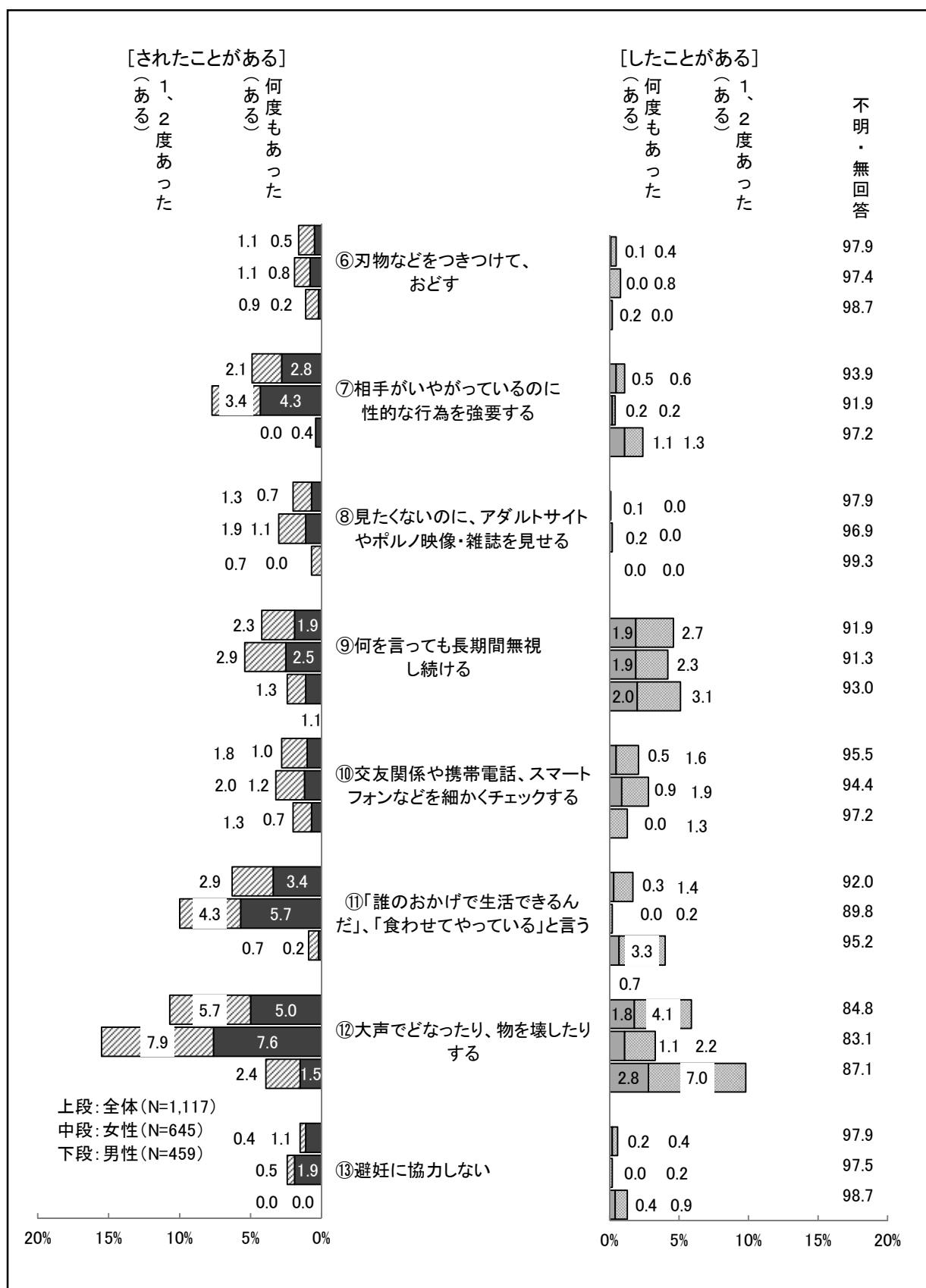
『平手で打つ』などの身体的暴力や『大声でどなったり、物を壊したりする』などの精神的暴力が多い。
加害経験者は 40 歳未満では男性より女性、40 歳以上では女性より男性が多い。

〔されたことがある〕(「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」の合計)は、女性では『⑫大声でどなったり、物を壊したりする』が 15.5%、『①平手で打つ』が 11.9%、『⑪「誰のおかげで生活できるんだ」、「食わせてやっている」と言う』が 10.0%と高くなっており、すべての項目で男性より割合が高くなっています。一方、男性で〔されたことがある〕が5%を超えているのは『①平手で打つ』が 5.9%となっています。

〔したことがある〕(「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」の合計)は、男性で『①平手で打つ』が 12.4%、『⑫大声でどなったり、物を壊したりする』が 9.8%と他の項目より高くなっています。

性別・年齢別にみると、各年代ともに〔されたことがある〕のは男性より女性の方が高くなっている一方で、〔したことがある〕のは 40 歳未満では男性より女性の方が高くなっています。





性別・年齢別

【[されたことがある] [したことがある]】の割合

		対象者数 (人)	された ことがある	した ことがある	不明・ 無回答
全体		1,117	22.2	16.0	68.5
女性		645	29.8	12.2	66.7
男性		459	12.2	21.8	73.0
女性	30歳未満	59	28.8	18.6	67.8
	30～39歳	93	29.0	22.6	62.4
	40～49歳	108	31.5	14.8	64.8
	50～59歳	117	30.8	7.7	66.7
	60～69歳	144	34.0	9.0	63.9
	70歳以上	124	23.4	7.3	74.2
男性	30歳未満	32	15.6	12.5	75.0
	30～39歳	58	8.6	13.8	84.5
	40～49歳	76	17.1	25.0	67.1
	50～59歳	64	18.8	29.7	62.5
	60～69歳	120	10.0	27.5	68.3
	70歳以上	107	8.4	15.0	82.2

(単位: %)

問 37 で①～⑬に 1 つ以上回答された方

問 37-1 問 37 のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。

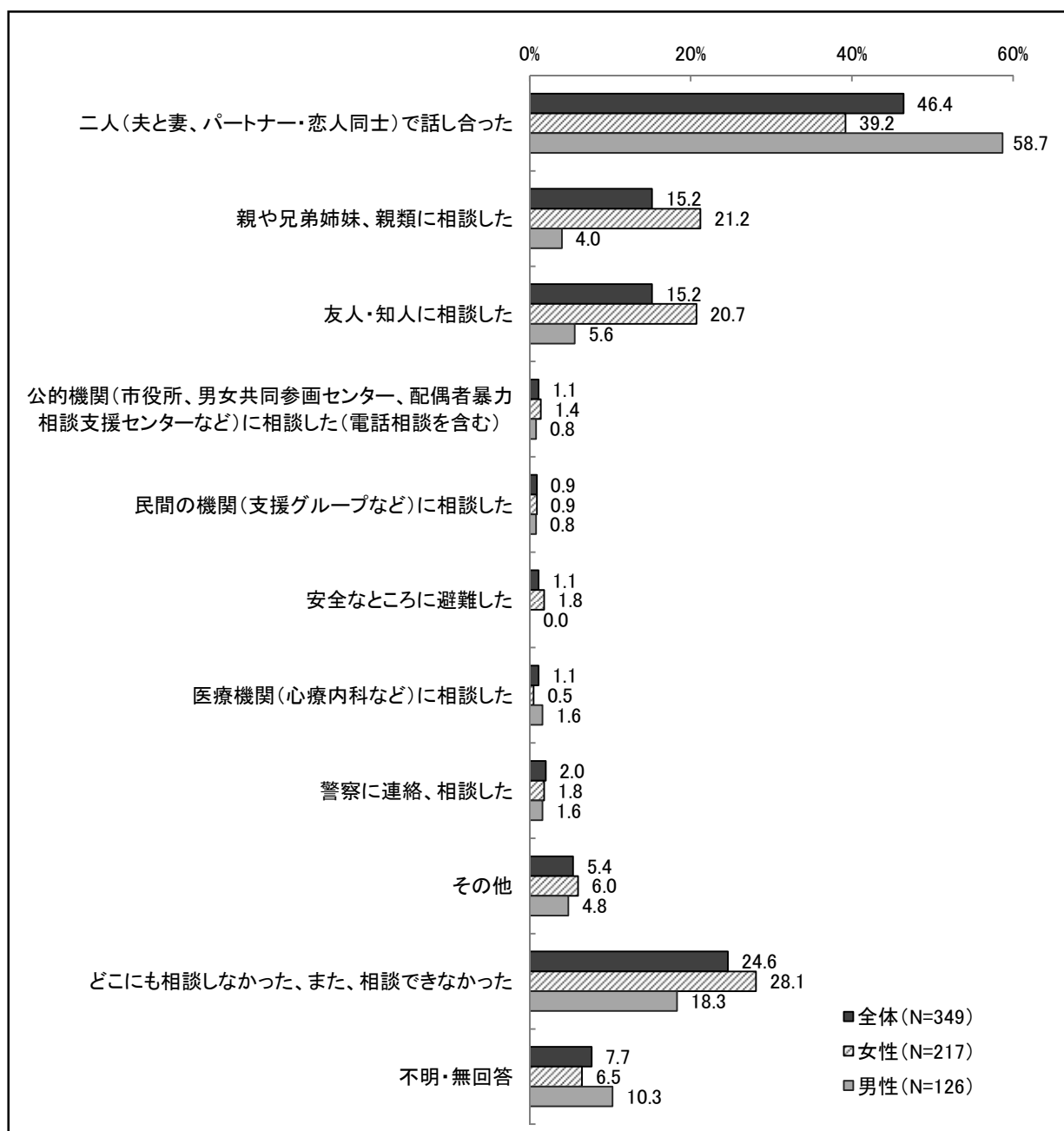
(〇はいくつでも)

■暴力行為後に「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」の割合が男女ともに高い。

「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は男性より女性の方が高い。

全体、男女ともに「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」が最も高く、女性で 39.2%、男性で 58.7%となっています。また、「親や兄弟姉妹、親類に相談した」「友人・知人に相談した」は女性では 2 割前半と他の項目に比べて高くなっており、公的機関や警察等、専門機関への相談はわずかとなっています。一方、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」との回答は女性で 28.1%、男性で 18.3%となっています。

性別・DVの経験別にみると、女性被害者では「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が 28.6%と高くなっています。



性別・DVの経験別

		対象者数（人）	二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った	親や兄弟姉妹、親類に相談した	友人・知人に相談した	公的機関（市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなど）に相談した（電話相談を含む）	民間の機関（支援グループなど）に相談した	安全なところに避難した	医療機関（心療内科など）に相談した	警察に連絡、相談した	その他	どこにも相談しなかった、また、相談できなかった	不明・無回答
女性	されたことがある	192	36.5	22.9	22.4	1.6	1.0	2.1	0.5	2.1	5.2	28.6	6.8
	したことがある	79	57.0	17.7	25.3	0.0	1.3	2.5	0.0	2.5	7.6	19.0	6.3
男性	されたことがある	56	48.2	7.1	8.9	1.8	1.8	0.0	3.6	3.6	7.1	19.6	10.7
	したことがある	100	62.0	4.0	6.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	5.0	17.0	10.0

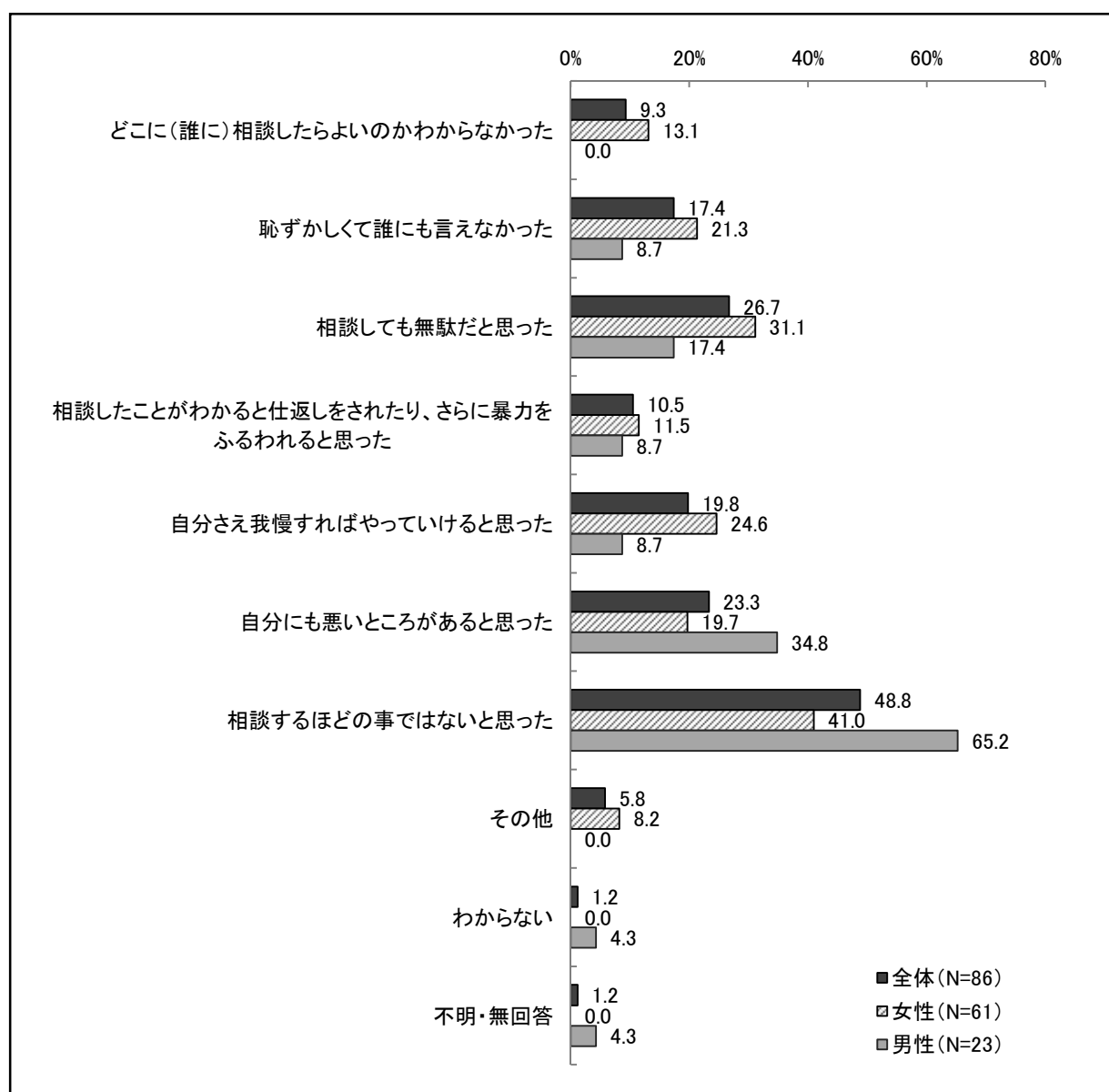
（単位：％）

問 37-1 で「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と回答された方
 問 37-2 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。
 (〇はいくつでも)

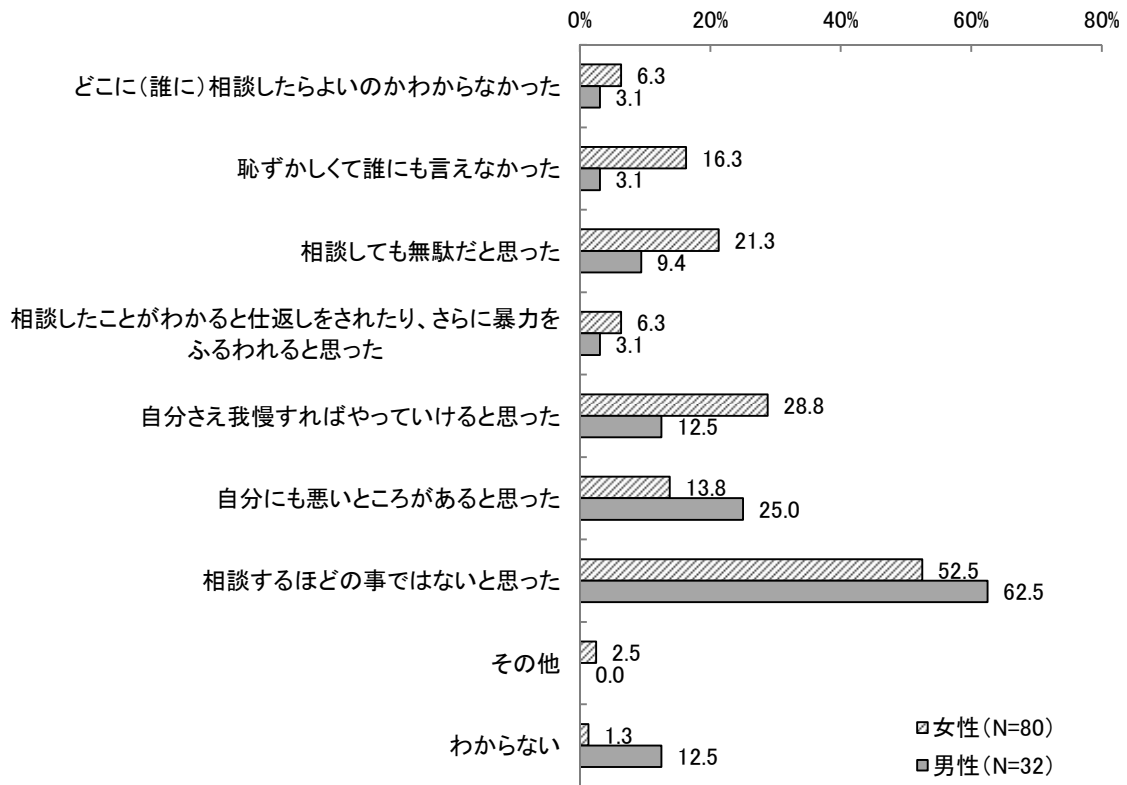
■「相談するほどの事ではないと思った」が男女ともに高くなっているが、女性では、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」の割合が男性より高い。

全体、男女ともに「相談するほどの事ではないと思った」が高く、次いで「相談しても無駄だと思った」もしくは「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が続いています。また、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」は男性の回答が無いのに対し、女性で 13.1% となっています。

前回調査と比べると、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」「相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った」「自分にも悪いところがあると思った」の各項目で、男女ともに今回調査の割合が高くなっています。



前回調査(平成 21 年度)



6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問 38 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。（〇はいくつでも）

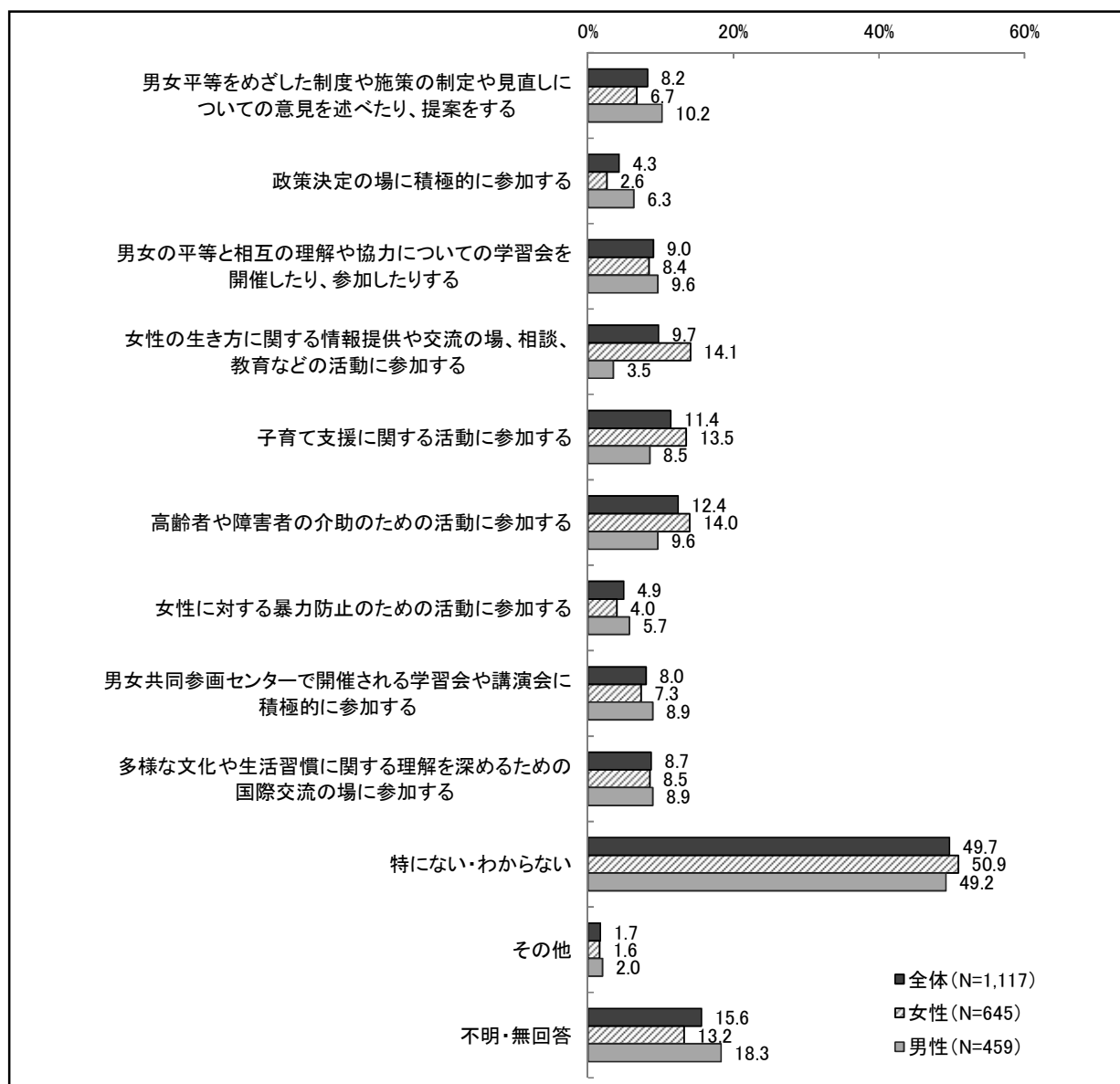
■「男女共同参画」の推進活動への参加について、約半数は「特にない・わからない」となっている。

「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」が1割前半。

全体、男女ともに「特にない・わからない」が4割後半から5割前半と特に高くなっています。

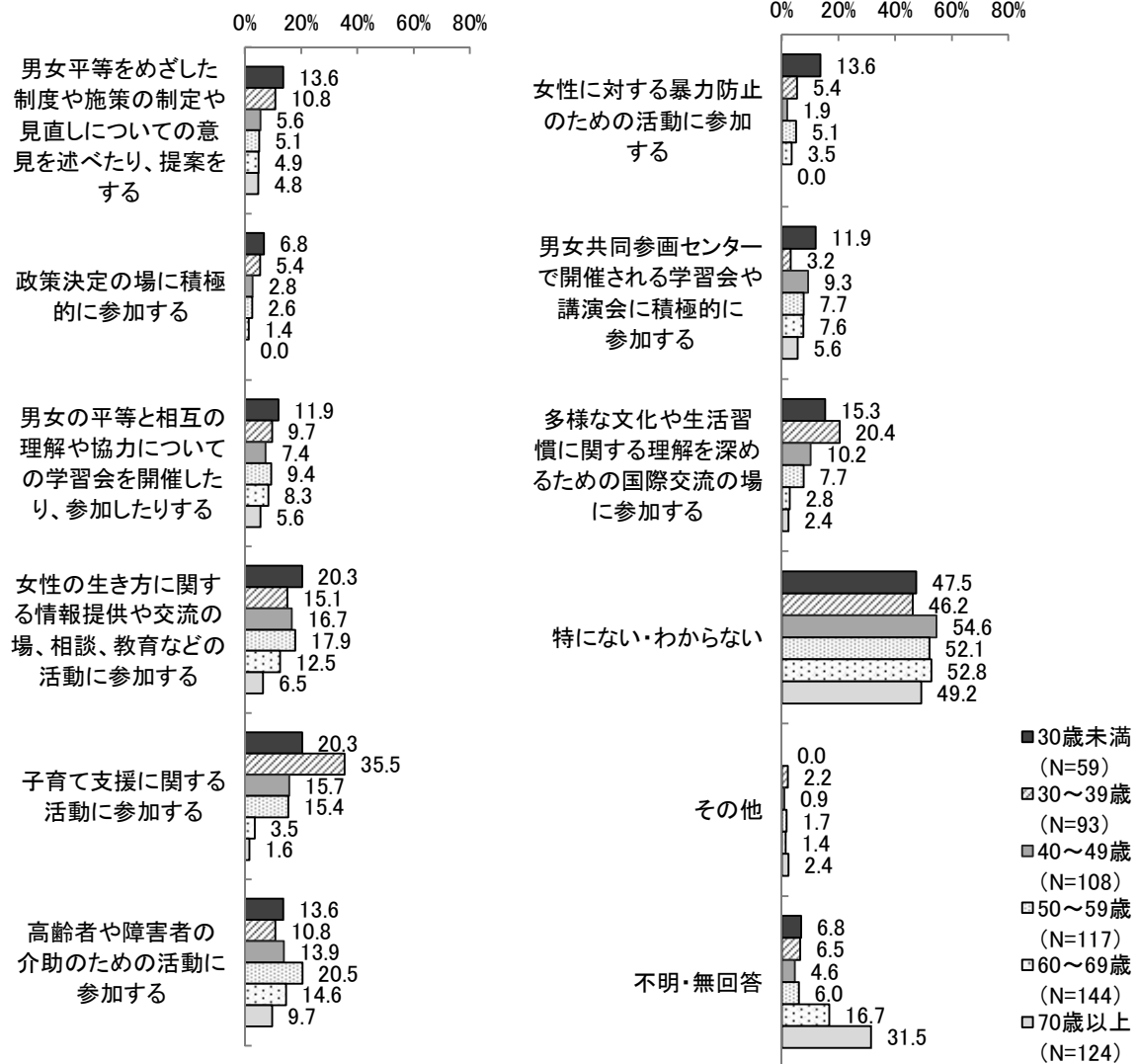
1割を超えているのは、女性で「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する」となっており、男性では「男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする」も比較的高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに40歳未満で「子育て支援に関する活動に参加する」が2割以上と他の年代に比べて高くなっています。

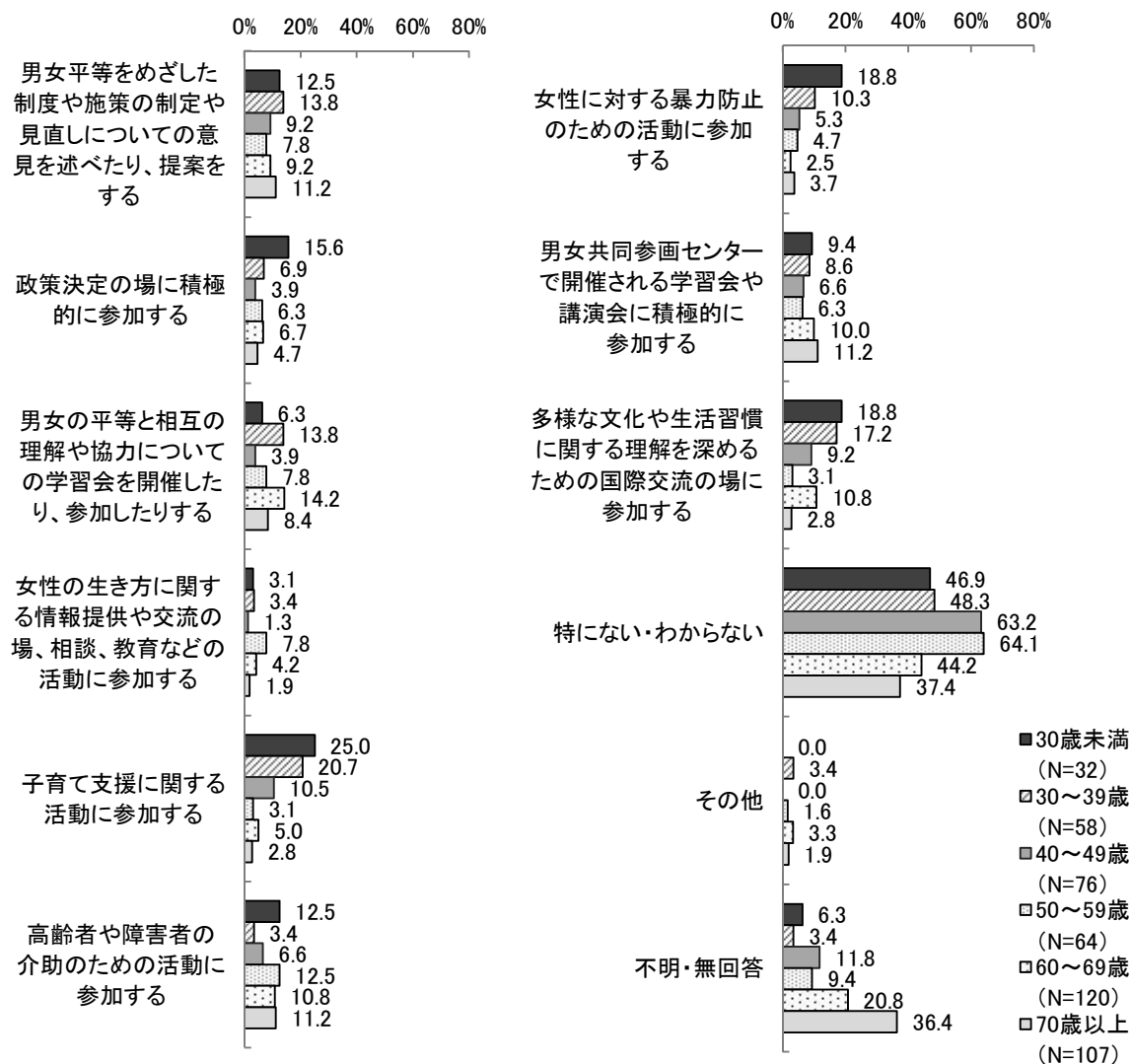


性別・年齢別

【女 性】



【男 性】



問 39 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。

(①～⑫の項目ごとに○は1つつつ)

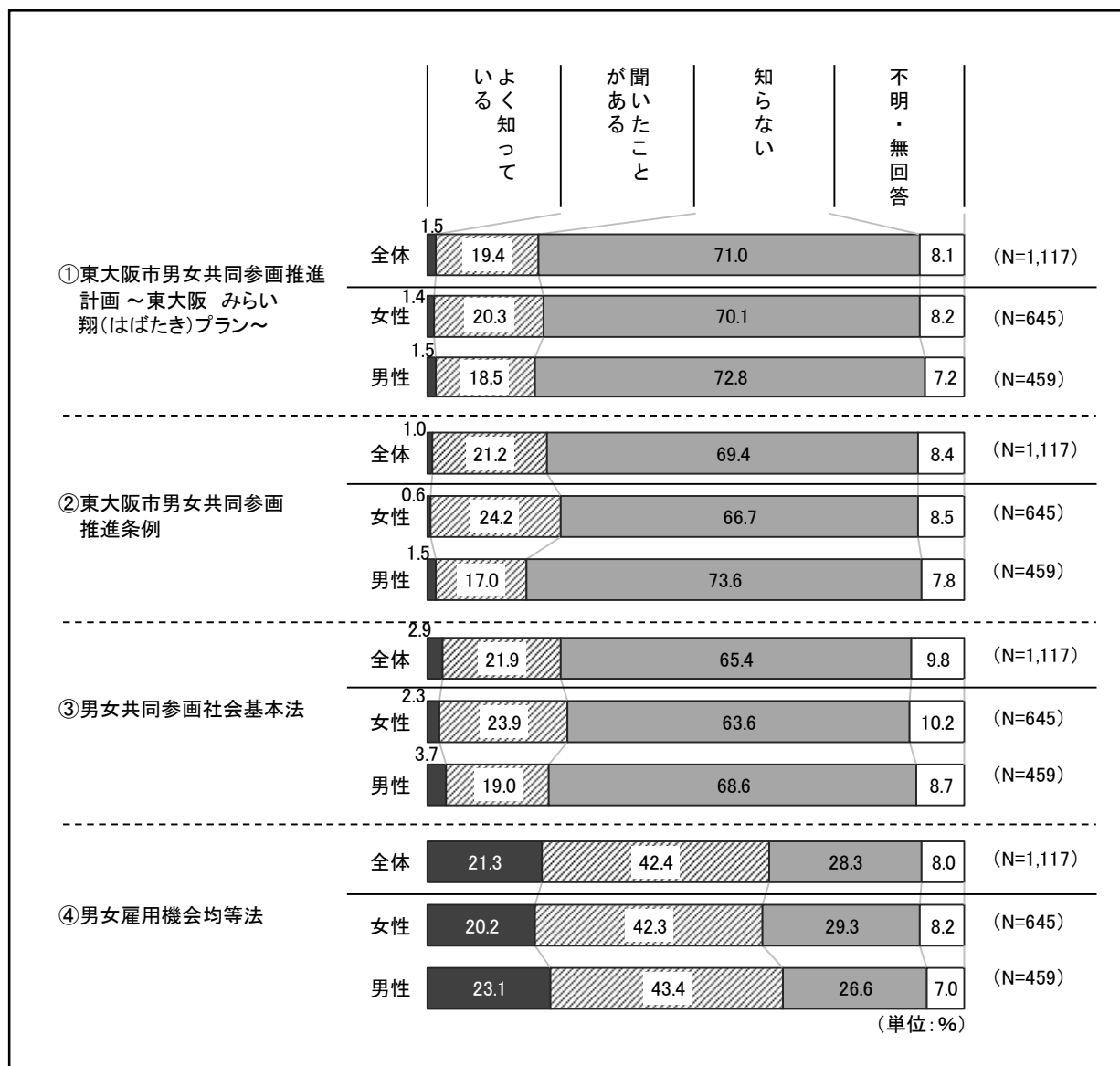
■『ドメスティック・バイオレンス（DV）』『男女雇用機会均等法』『育児・介護休業法』の認識が比較的高い。

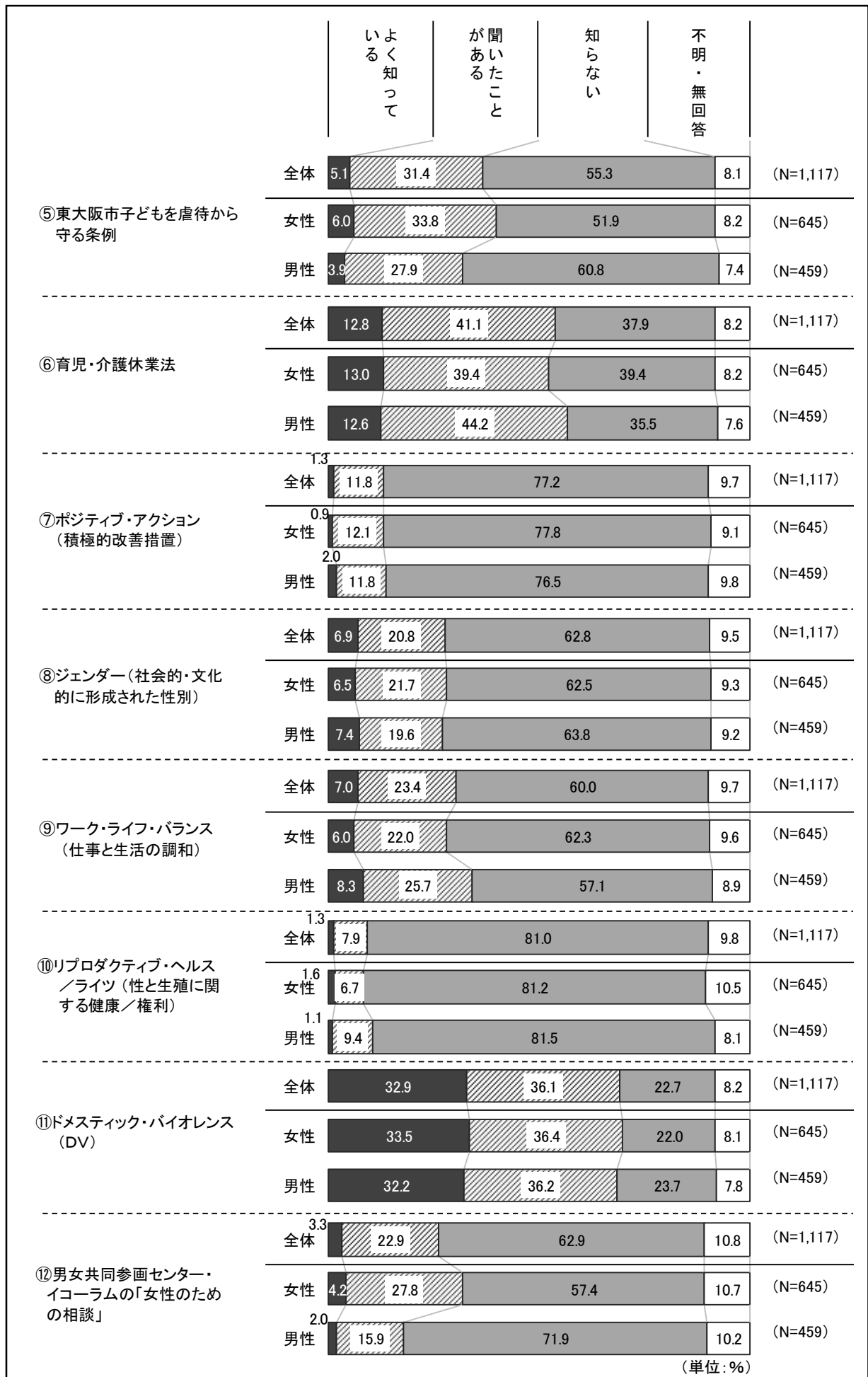
前回調査より男女共同参画に関する法律や言葉、東大阪市の取り組みが浸透しはじめている。

全体、男女ともに「よく知っている」割合が1割を超えているのは『⑪ドメスティック・バイオレンス（DV）』『④男女雇用機会均等法』『⑥育児・介護休業法』となっており、比較的认识度が高くなっています。一方、それ以外の項目は「知らない」割合が男女ともに5割以上となっています。

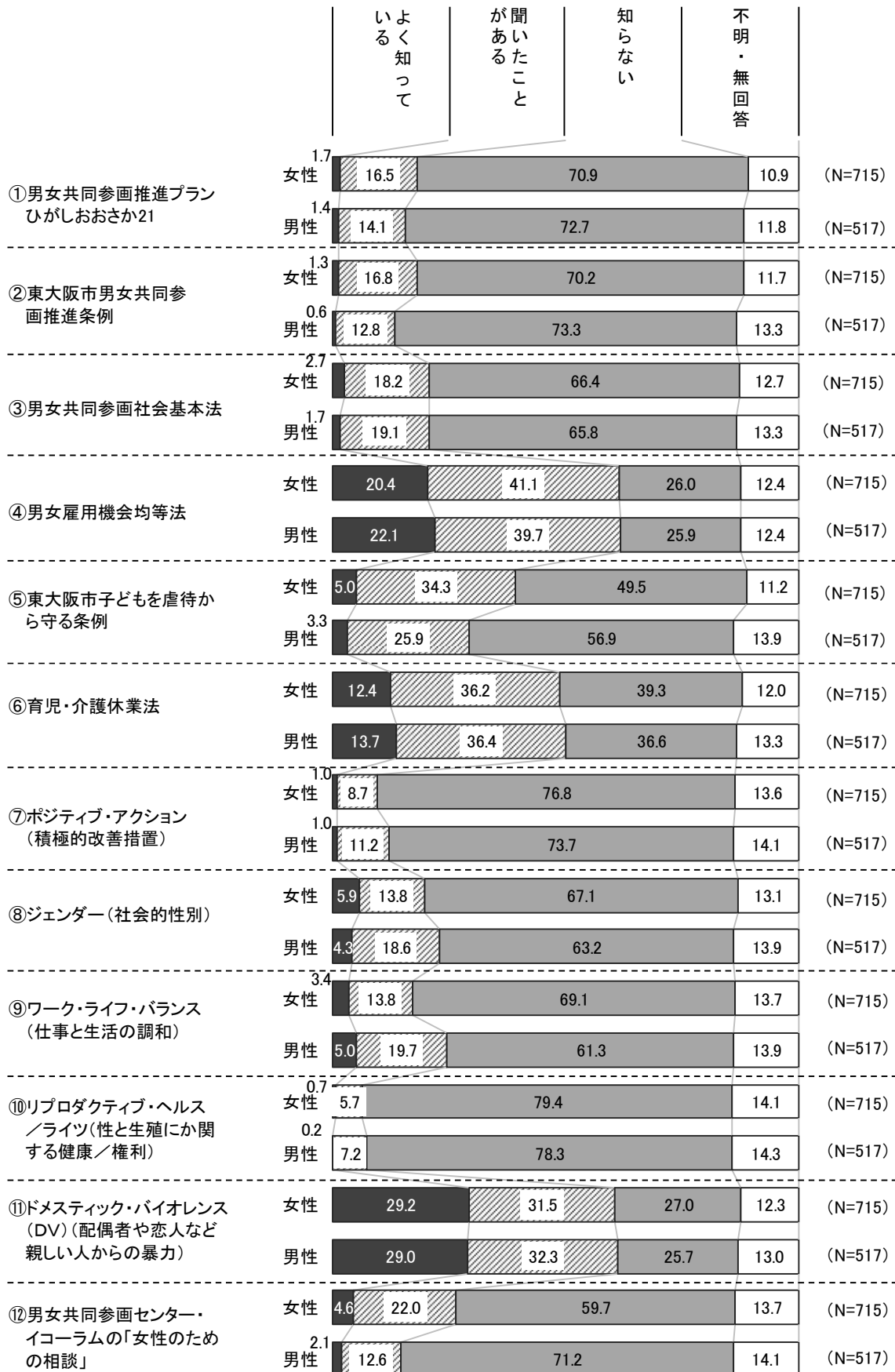
また、東大阪市の取り組みについて、全体の「よく知っている」割合は『①東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい 翔（はばたき）プラン～』で1.5%、『②東大阪市男女共同参画推進条例』で1.0%とわずかとなっており、『⑤東大阪市子どもを虐待から守る条例』では5.1%とやや高くなっています。

前回調査と比べると、「よく知っている」「聞いたことがある」の合計がすべての項目で今回調査の方が高くなっています。





前回調査(平成21年度)



(単位: %)